

やまがたみなみ

国道112号 山形南道路

第3回 計画段階評価

1. 計画段階評価の検討の流れ
2. 第2回地域の意見聴取結果の確認
3. 対応方針（原案）の検討
4. 自治体への意見照会結果
5. 対応方針（案）のまとめ

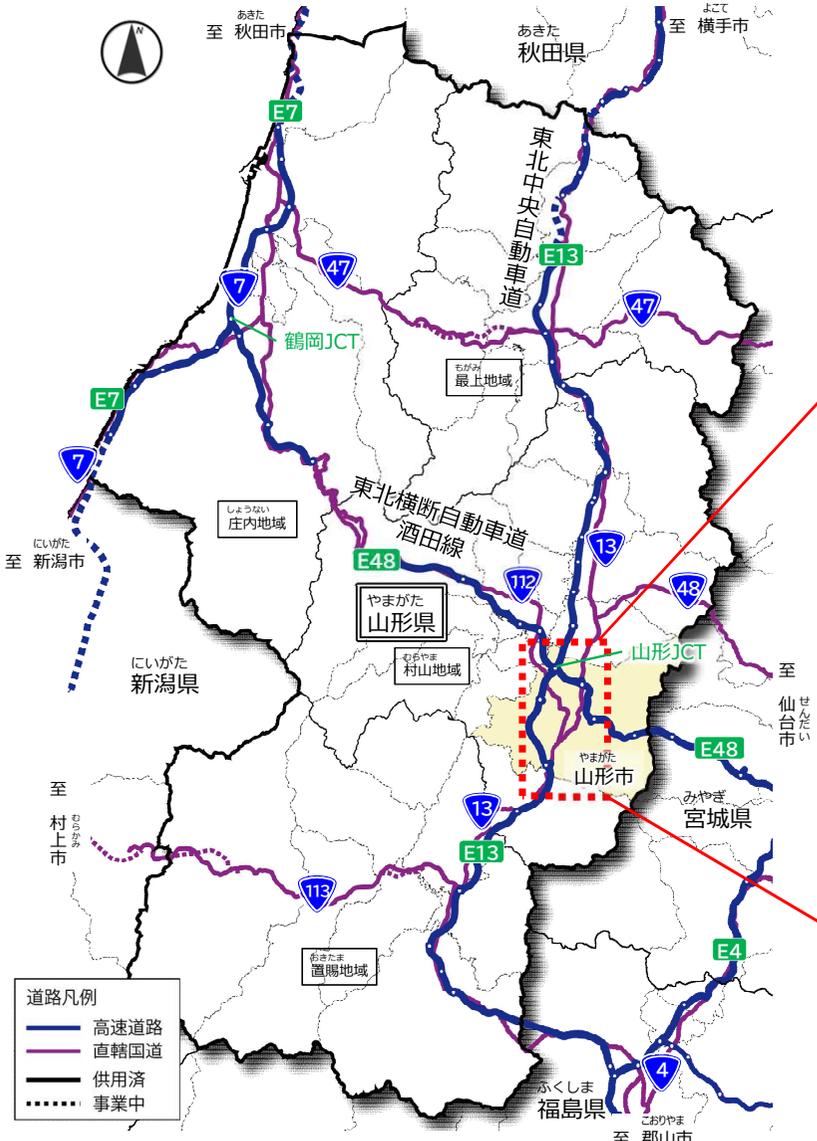
令和5年11月15日
国土交通省 東北地方整備局

1. 計画段階評価の検討の流れ

1-1. 評価対象区間

- ◆ 山形県の県都である山形市は東北中央自動車道や東北横断自動車道酒田線が交差し、山形県を南北に縦断する国道13号と山形市を起点とする国道112号の他、国道286号や国道348号が分岐・合流するなど、広域道路交通の要衝であり、平成31年4月には中核市※に移行。
- ◆ 評価対象区間は、山形中心市街地の南西部に位置する、山形市蔵王～同市西崎間の約9km。

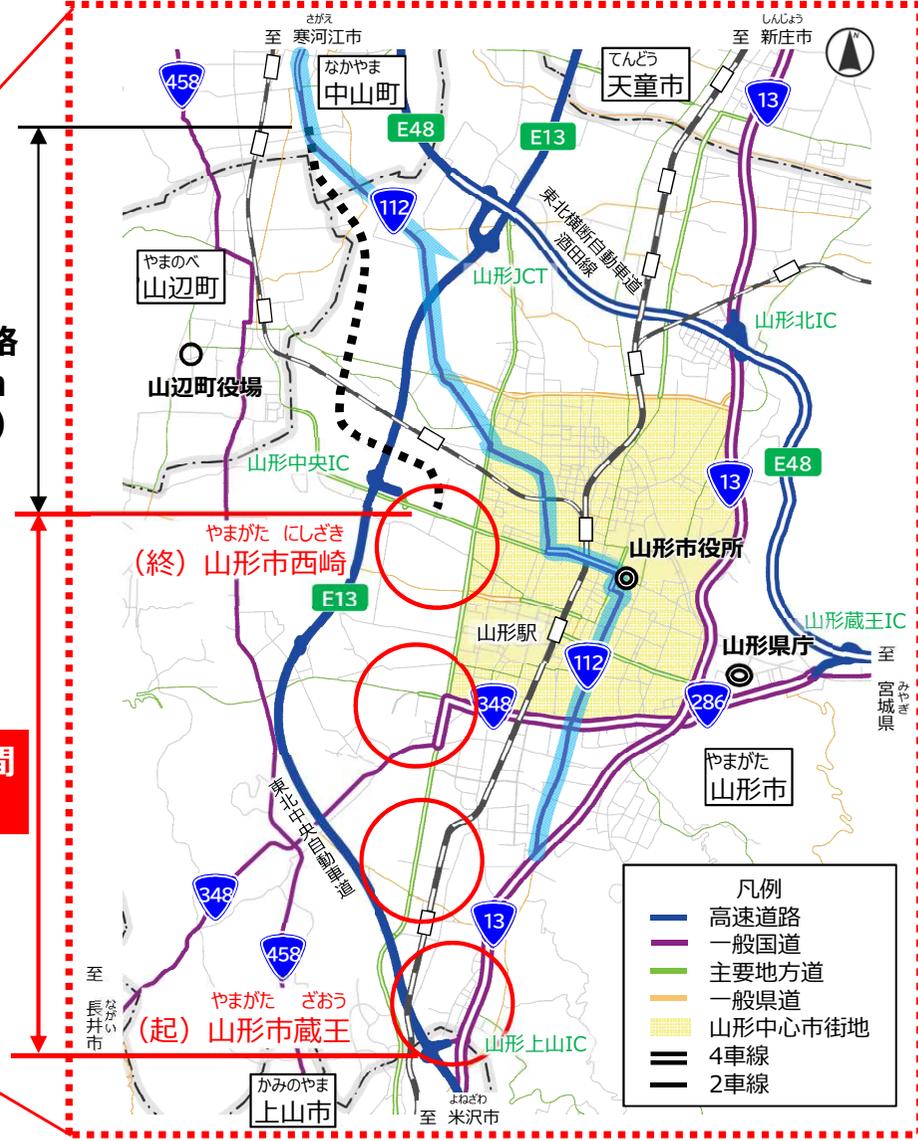
※中核市:人口20万人以上の都市で、都道府県の権限を一部委譲することにより効率的かつ市民の意向に沿った政策を行う都市



【図1】広域図

やまがたなかやま
山形中山道路
延長7.4km
(R2事業化)

評価対象区間
(約9km)



【図2】評価対象区間位置図

1-2. 前回(第2回)審議内容

■第38回社会資本整備審議会 道路分科会 東北地方小委員会の概要

実施日:令和4年11月4日(金)開催

- 議事:①計画段階評価の検討の流れ
 :②第1回地域の意見聴取結果の確認
 :③政策目標の設定
 :④対応方針(ルート帯案)の検討
 :⑤第2回地域の意見聴取の方法

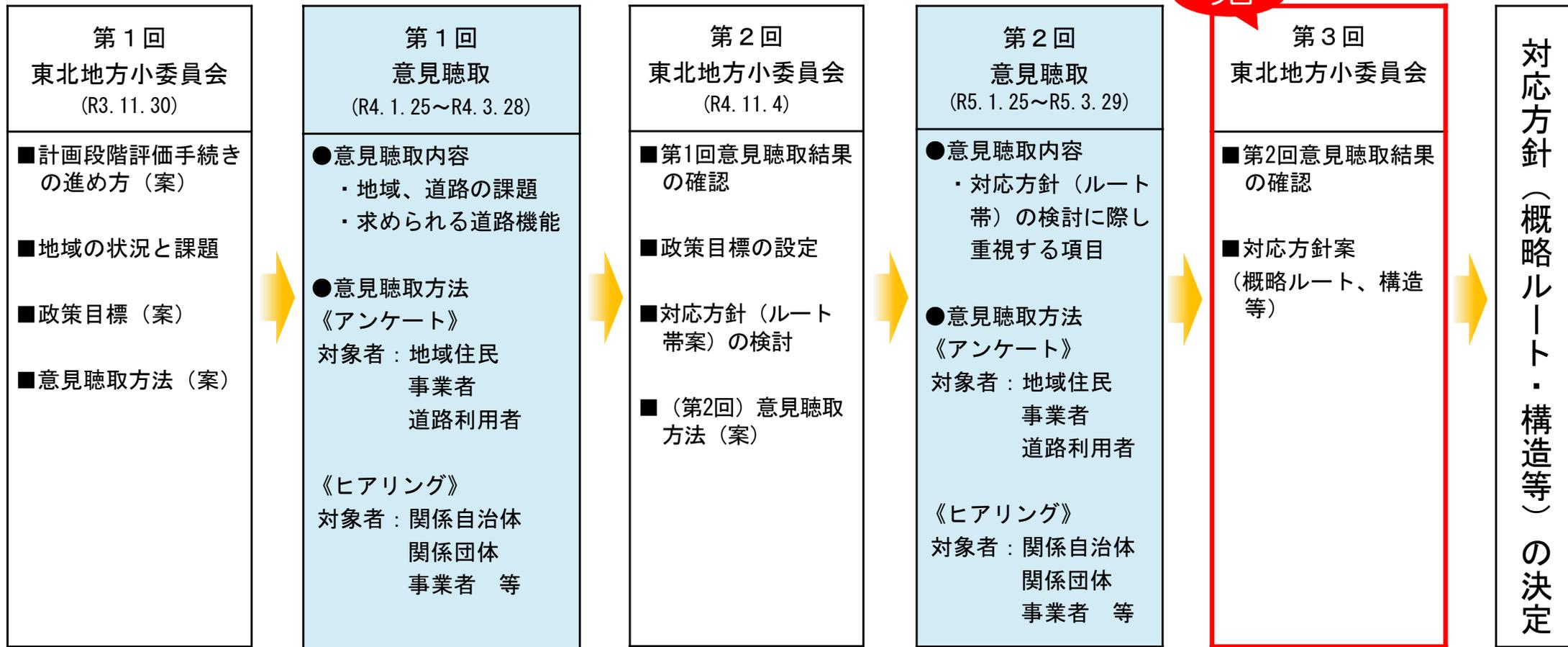
【表1】前回審議における主な指摘事項と対応状況

指摘事項	対応状況	対応頁
<ul style="list-style-type: none"> アンケート票に記載する図は方角の統一を検討すること。 (全体図とルート帯図の位置関係が分かりにくい) 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート票のルート帯図は上を北向きとして、他地図と統一。 	P8
<ul style="list-style-type: none"> アンケートに道路利用属性(通過や発着等)の項目を追加すること。 (第1回意見聴取では道路利用属性で地域課題に違いが読み取れたため、第2回意見聴取でも確認する必要があるのではないか) 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回意見聴取においても回答者の対象範囲の利用が「通過・発着・内々」のいずれか分かるように実施。 	P8
<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地への通過交通の存在とすべきではないか。 (都市圏と記載があるが、都市圏は広域都市圏の印象のため、名称を変更すべきではないか) 	<ul style="list-style-type: none"> 外環状道路に囲まれるエリアを「山形中心市街地」と表記。 	P8

1-3. 今後の計画段階評価の進め方(案)

◆ 地域住民・事業者・道路利用者の意見を聞きながら、対応方針案(概略ルート、構造等)について検討。

計画段階評価



地方小委員会

2. 第2回地域の意見聴取の結果

2-1. 第2回地域の意見聴取の実施内容

◆ 第2回地域の意見聴取は、地域住民・事業者・道路利用者へのアンケート調査、および関係団体へのヒアリング調査を実施。

1. 意見聴取期間

令和5年1月25日～令和5年3月29日

2. 意見聴取の対象

【表1】アンケート調査による意見聴取の対象

項目		調査対象	調査手法・規模
地域住民	沿線地域	山形市(評価対象範囲沿線地域)	全戸配布 39,952票※1
	周辺地域	山形市(評価対象範囲沿線地域外)、 上山市、山辺町、中山町	抽出配布 22,454票※1
道路利用者		道路利用者	・WEBアンケート (事務所ホームページ) ・留置アンケート(14箇所)※2
事業者		事業者 (山形市、上山市、山辺町、中山町の 製造業、卸売業、サービス業及びバス・ タクシー・トラックの各協会加入事業者)	・郵送配布、郵送回収 494団体

※1地域住民アンケート配布エリア

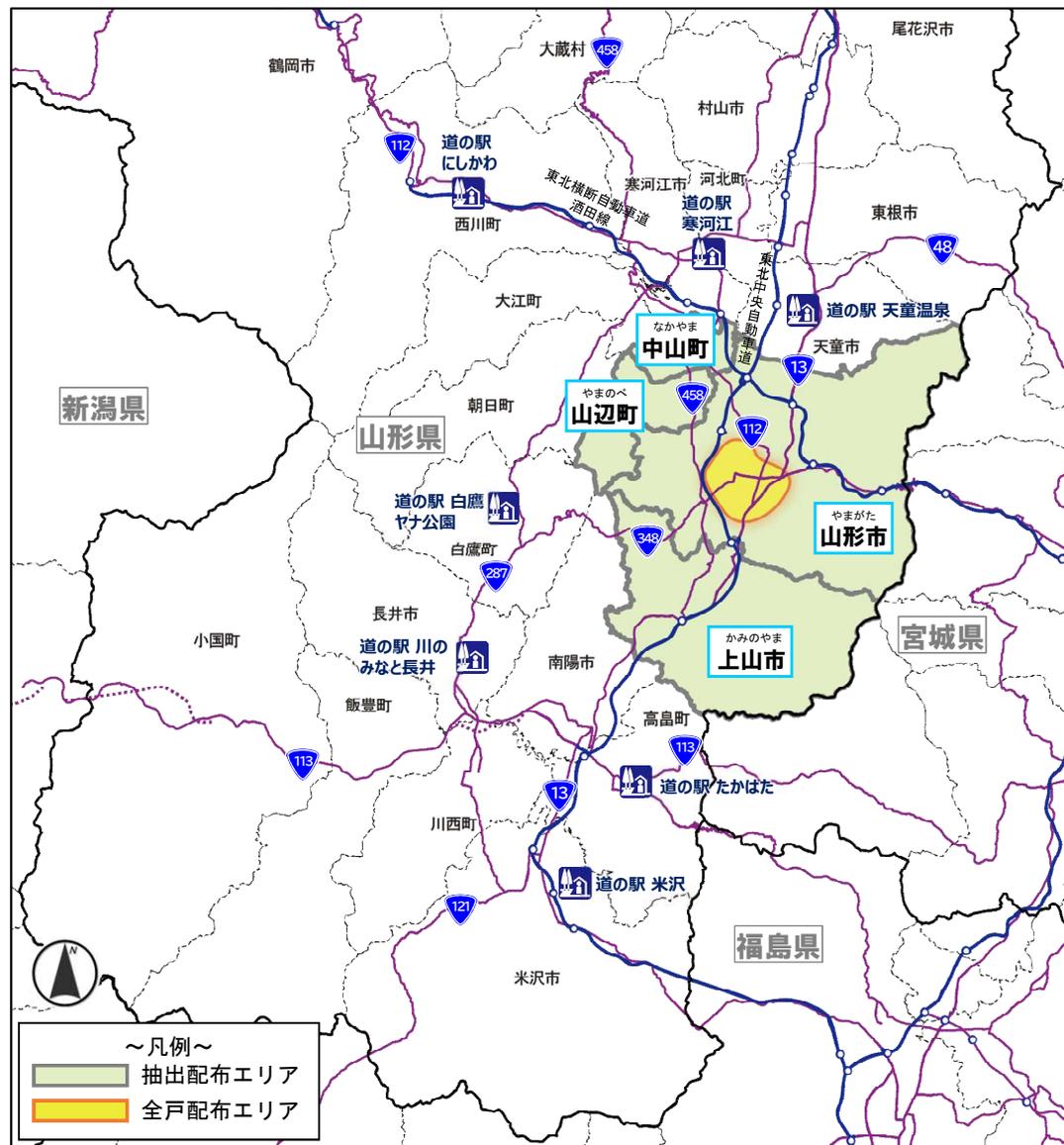
沿線地域: 評価対象範囲沿線(評価対象路線から500m)がカバーできる範囲を基本
周辺地域: 評価対象範囲に含まれる幹線道路(県道以上)の評価対象範囲地域外の沿線を
基本に抽出

※2留置きアンケートについては、以下の施設にアンケート調査票・回収箱を常設した。

役所 : 山形河川国道事務所、山形県庁、山形県村山総合庁舎、山形市役所、上山市役所、
山辺町役場、中山町役場
道の駅: 道の駅白鷹ヤナ公園、道の駅川のみなと長井、道の駅たかはた、道の駅天童温泉、
道の駅寒河江、道の駅にしかわ、道の駅米沢

【表2】ヒアリング調査による意見聴取の対象

項目	ヒアリング対象	
関係自治体 関係団体 事業者等	○自治体【5自治体】	○経済団体【4団体】
	○観光協会【2団体】	○トラック協会【1団体】
	○バス協会【1団体】	○タクシー協会【1団体】
	○農業協同組合【2団体】	○警察機関【1団体】
	○消防機関【2団体】	○医療機関【2団体】
	○教育機関【2校】	○製造業【5社】



※対象地域は山形市、上山市、山辺町、中山町とする

2-1. 第2回地域の意見聴取の実施内容

- ◆ 地域住民へのアンケートは、山形市の評価対象範囲沿線地域に全戸配布、その他の山形市、上山市、山辺町、中山町に抽出配布、Webアンケート・留置きアンケートを実施。全体の回収数は12,981票、郵送配布における世帯単位での回収率は約14%となった。
- ◆ 事業者へのアンケートは、対象地域の製造業者、沿線の物流業者を対象に行い、全体の回収数は203票、郵送配布における回収率は39%となった。

【表1】アンケート調査票の回収状況

分類	配布方法	配布数	回収数	回収率
地域住民・ 道路利用者	郵送配布 (回答ハガキを2枚添付)	62,406世帯	8,900世帯※1 (うち2,384世帯はWeb回答)	約14%
	はがき回答 総数	—	12,155票※2	—
	留置き	—	129票	—
	Web	—	697票	—
	合計	—	12,981票	—
事業者	郵送配布	494社	192社 (うち78社はWeb回答)	約39%
	Web	—	11社※3	—
	合計	—	203社	—

※1. 1枚目・配布はがき記載二次元コードからの回答を合計した数

※2. ※1に2枚目を合計した数

※3 郵送配布対象以外の事業者（山形市、上山市、山辺町、中山町以外の市町も含む）

- ◆質問票(はがき)に、世帯ごとに異なるナンバリングを行い、回答した世帯数を把握できるように調査を実施。
- ◆対象範囲の利用状況(通過、発着、内々)の問いを設け、回答者の交通特性を把握できるように調査を実施。
- ◆性別は記入方式とし、任意に回答できるように配慮。

■地域意見聴取内容

- [回答者属性] 年齢、職業、性別(任意)、住所、第1回アンケートへの回答
 [問1] 対象範囲の利用状況(目的、手段、頻度、主な出発地・目的地)
 [問2] 対策案を検討する際の重視すべきと思われる場合
 [問3] 重視すべきと思われる理由
 [問4] その他重視すべきと思われる項目

「評価対象範囲」を対象範囲として質問

<アンケート・質問票 裏面>

ト帯)の考え方

<アンケート・質問票 表面(抜粋)>

▼回答方法はWebまたははがきからお選びいただけます。

Webで回答する

①スマートフォンから

②パソコンから

手軽なWeb回答がおすすめです!

はがきで回答する

若年層への回答数を増やすため、Webへ回答しやすくなるように工夫

②回収ボックスに投函

回答はがき ※回答はがきは2枚あります。お一人様1枚ずつの回答をお願いします。 令和5年3月29日(水)

1枚目

2枚目

1世帯あたり2枚配布

調査票に世帯ごとのナンバリングを行い、回答した世帯数を把握できるように調査

- ご意見を踏まえて、以下の8項目をルート帯を検討する上で重視すべき事項として考えています。
- | 政策目標 | ① 必要な交通容量の確保
② 安全な交通環境の確保
③ 円滑な物流ルートの確保
④ 安定した救急搬送ルートの確保 |
|---------|---|
| 配慮すべき事項 | ⑤ 生活環境
⑥ 自然環境
⑦ 工事の影響
⑧ 経済性 |

山形中心市街地南西部の地域と道路の課題解消のため、2つの案を立案しました

案1 バイパス案(現道活用案)
 県道蔵王成沢長谷堂線と(主)山形上山線を活用する案です。



案2 バイパス案(別線整備案)
 対策案のメリット・デメリットを分かりやすく説明

ルート案	案1 バイパス案(現道活用案)	案2 バイパス案(別線整備案)
必要交通容量の確保	多車線化により、交通容量が確保される	バイパス整備により、交通容量が確保される
安全な交通環境の確保	現道の多車線化のため、利用交通の混雑は解消されない	バイパス整備により、利用交通の混雑が解消される
円滑な物流ルートの確保	多車線化により現道の渋滞緩和が図られ、渋滞に起因する事故が減少	バイパス整備により現道の渋滞緩和が図られ、渋滞に起因する事故が減少
安定した救急搬送ルートの確保	救急搬送ルートの渋滞の緩和により、救急搬送の安定性、速達性が向上	バイパス整備により、現道の渋滞緩和を図り、走行性、速達性が向上
自然環境への影響	支障物件数が多いため考えられ、対策範囲が広いが、旧道環境への影響は大きい	支障物件数が少ないと考えられ、旧道環境への影響は少ない
生活環境	市街地部での中央分離帯設置により、出入り制限時の利用形態の改善を伴うため影響は大きい	バイパス区間が主であり、現道活用区間における利用形態の改善は少ない
自然環境	現道改良のため地形変化が小さく、自然環境への影響は小さい	一部区間を除くバイパス整備のため、地形変化が発生し自然環境への影響が大きい
工事の影響	現道改良が必要で、施工時に比較長い区間・長い期間で交通規制が必要となるため、現道交通への影響は大きい	現道の工事は一部区間のみであるため、施工時の現道交通への影響は小さい
経済性	整備に要する費用 約730億830万円	約620億720万円

質問票

問1 対象範囲(山形中心市街地南西部)の道路利用についてお答えください。

A. 主な利用目的(主なものを2つに)

B. 利用頻度(回/週に)

C. 移動手段(主なもの2つに)

D. 主な出発地・目的地

問2 対象範囲の課題解決のための対策案を検討する際の重視すべきと思われる場合、少なくとも2つを重視しなくても良いから選んでください。

問3 問2でチェックした項目について、そう思われる理由をお書きください。

問4 問2でチェックした項目以外で、重視すべきと思われることをお書きください。

対象範囲の利用状況(通過、発着、内々)の問いを設け、回答者の交通特性を把握できるように調査

C. 利用手段

D. 主な出発地・目的地

問2. 重視すべきと思われる場合の2つを付けてください。

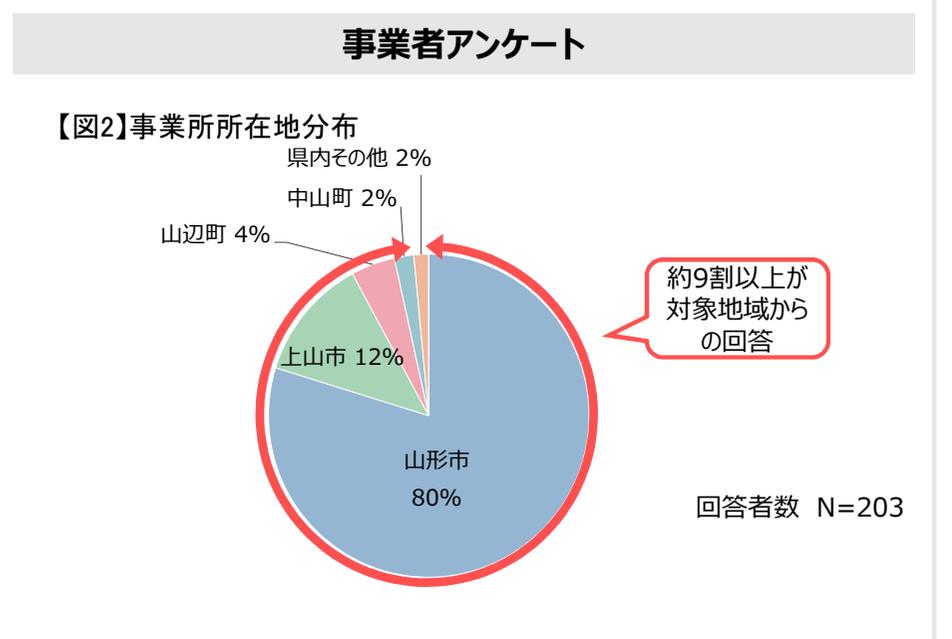
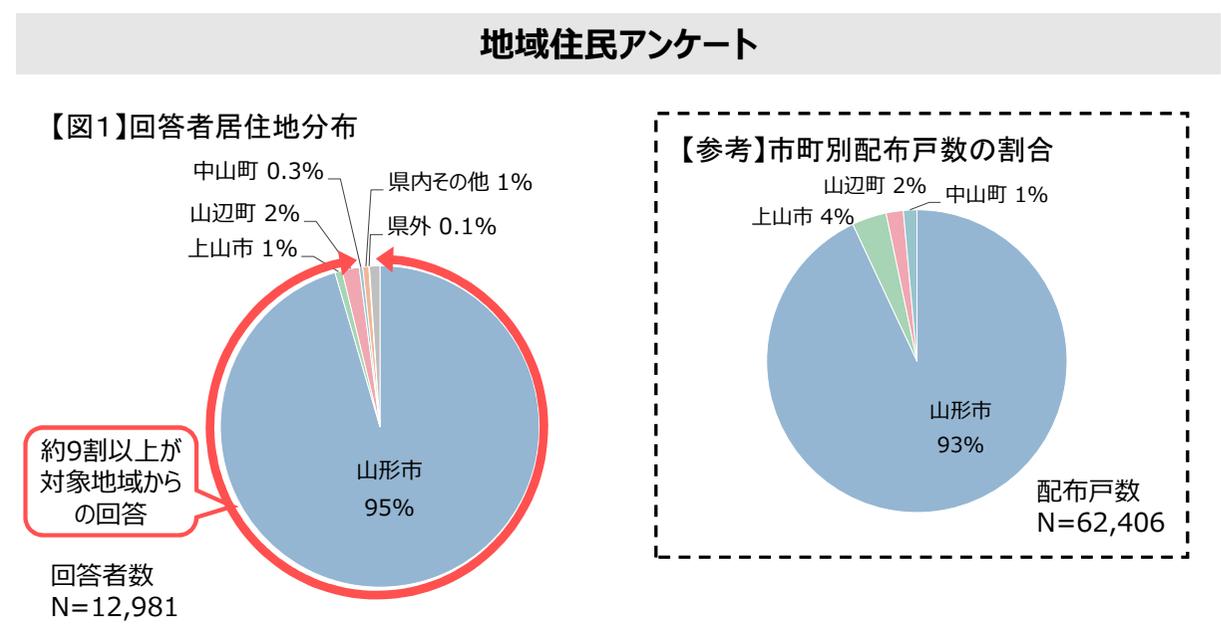
問3. 重視すべきと思われる理由

問4. 他に重視すべきと思われること

2-3. 第2回地域の意見聴取の結果(アンケート調査)/属性1

- ◆ 地域住民アンケートでは、山形市が約9割以上を占め、対象地域の配布戸数割合とほぼ同等の割合で回答を得た。
- ◆ 事業者アンケートは、対象地域の事業者が約9割以上を占め、その内、約8割が山形市。

あなたについてお聞かせください。(住所)



【表1】調査手法別回答数

	回答数			
	郵送	留置	web	合計
山形市	9,343	91	2,959	12,393
上山市	51	3	37	91
山辺町	185	10	35	230
中山町	29	0	15	44
県内その他	27	19	33	79
県外	5	2	2	9
不明・無回答	131	4	0	135
計	9,771 (75%)	129 (1%)	3,081 (24%)	12,981 (100%)

【表2】アンケート回収状況

	回答数		
	郵送	Web	合計
山形市	86	75	162
上山市	16	9	25
山辺町	7	2	9
中山町	4	0	4
県内その他*1	1	2	3
県外	0	0	0
不明・無回答	0	0	0
計	114 (56%)	89 (44%)	203 (100%)

*1 県内その他: 東根市、寒河江市、村山市
 *2 山形市から東根市へ住所変更となった事業者が郵送配布に含まれる

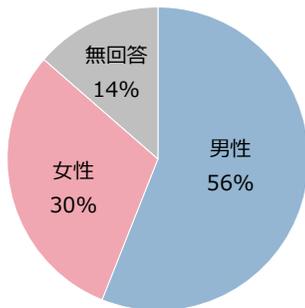
- ◆ 地域住民アンケートの属性では、年齢構成は60代以上が約6割、職業は就業者が約5割を占めた。
- ◆ 事業者アンケートの属性では、業種は「製造業」「運輸業」で約6割を占めた。
- ◆ 今回新たに回答した方は、住民・事業者ともに約3割であった。

あなたについてお聞かせください。(住民:性別、年齢、職業、第1回アンケートへの回答 事業者:業種、第1回アンケートへの回答)

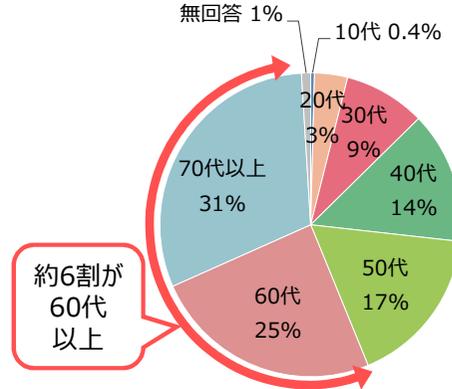
地域住民アンケート

回答者数 N=12,981

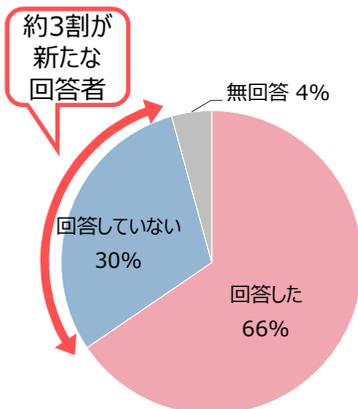
【図1】性別



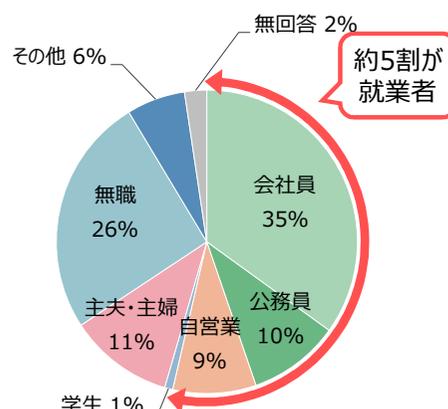
【図2】年齢



【図3】第1回アンケートへの回答



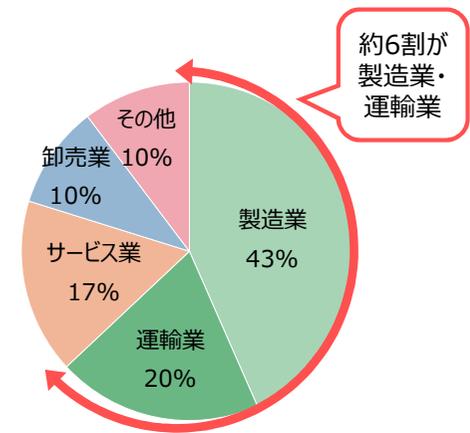
【図4】職業



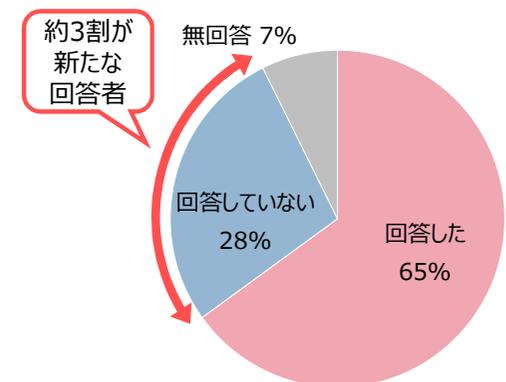
事業者アンケート

回答者数 N=203

【図5】業種



【図6】第1回アンケートへの回答

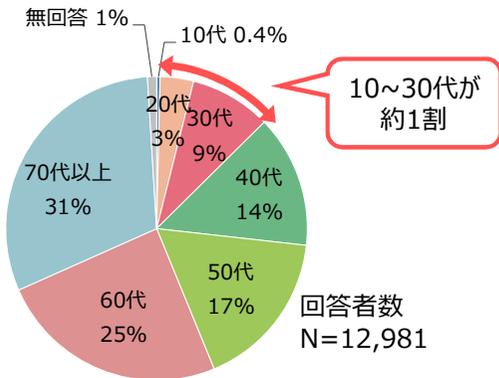


- ◆ 地域住民アンケートにおける若年層(10~30代)の割合は、全回答者数の約1割、回答方法別の割合は、郵送が約1割に対し、留置き・Webが約3割であった。
- ◆ Webによる回答割合は、第1回から第2回では住民全体で5ポイント減少した。
- ◆ アンケート調査を知ったきっかけは、郵送はがきが約8割を占めた。

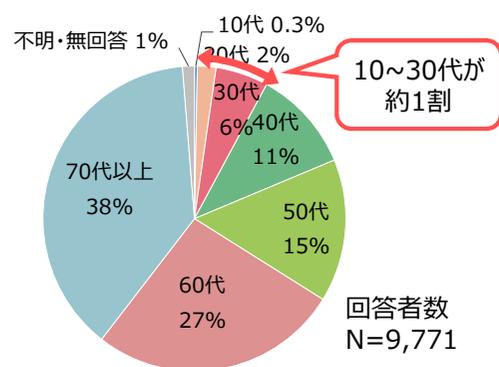
あなたについてお聞かせください。(地域住民:年齢、回答方法別年齢構成、第1回アンケート回答状況、知ったきっかけ)

年代別・回答方法別の回答割合

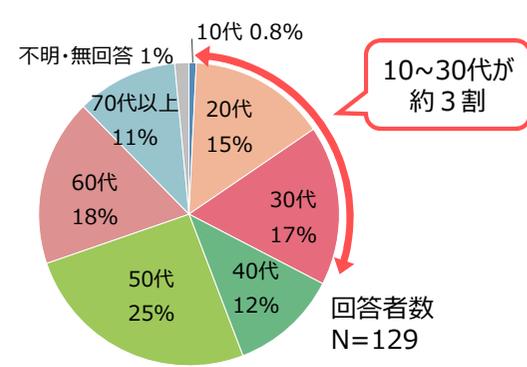
【図1】年齢



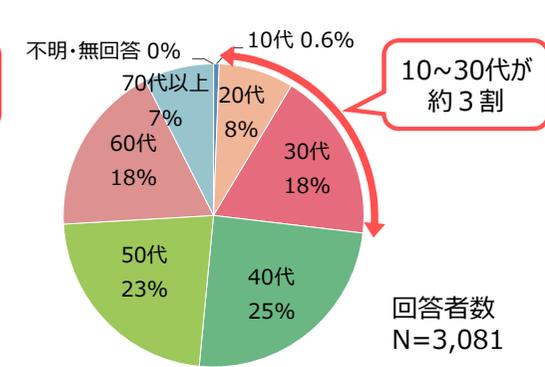
【図2】郵送



【図3】留置き

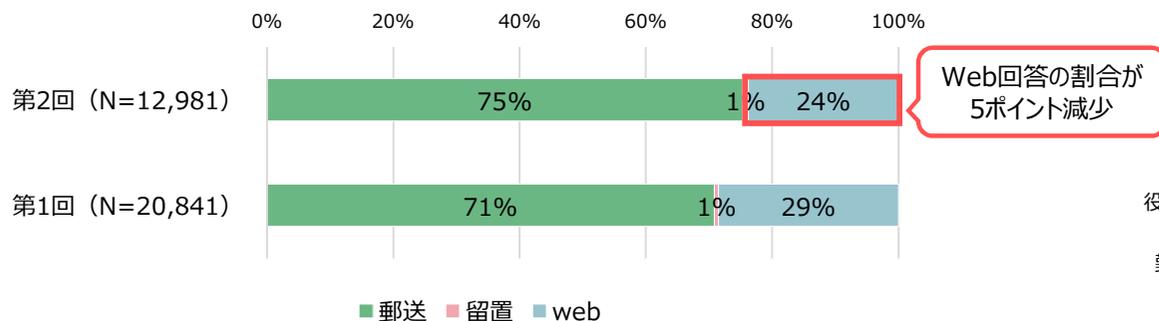


【図4】Web

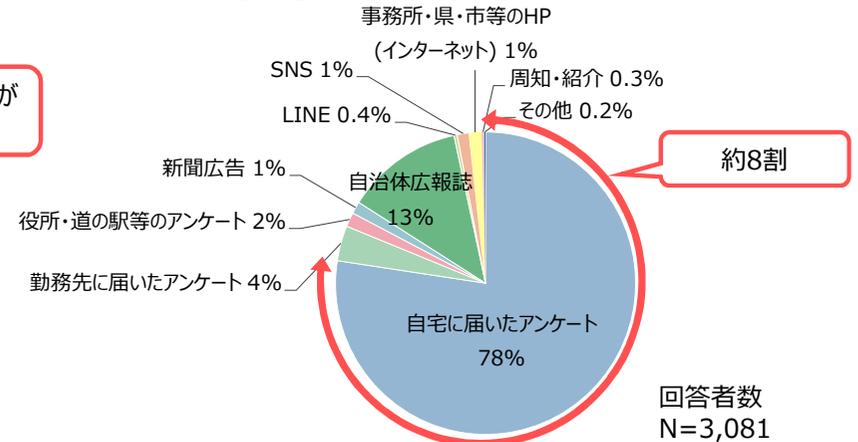


Webアンケートに関する回答割合

【図5】第1回アンケート回答状況との比較



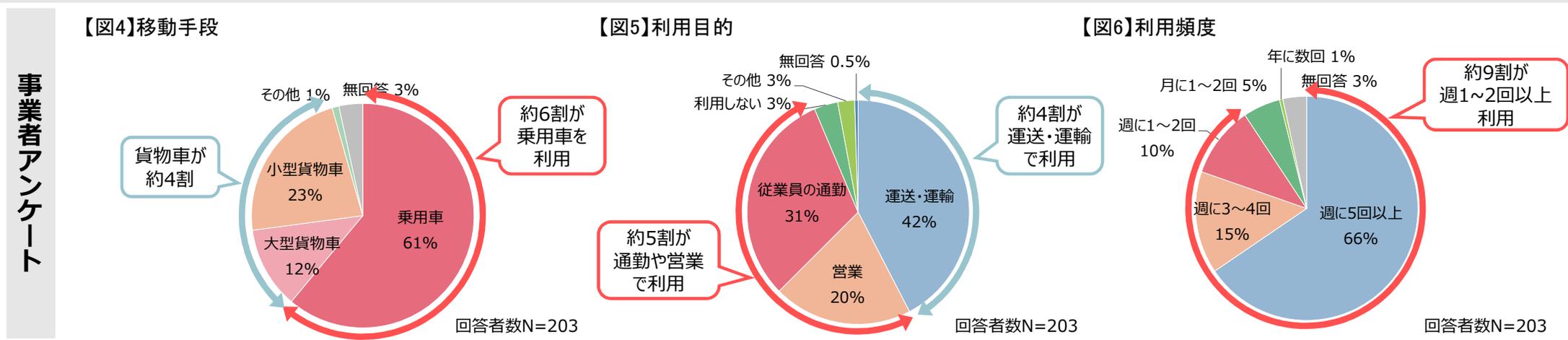
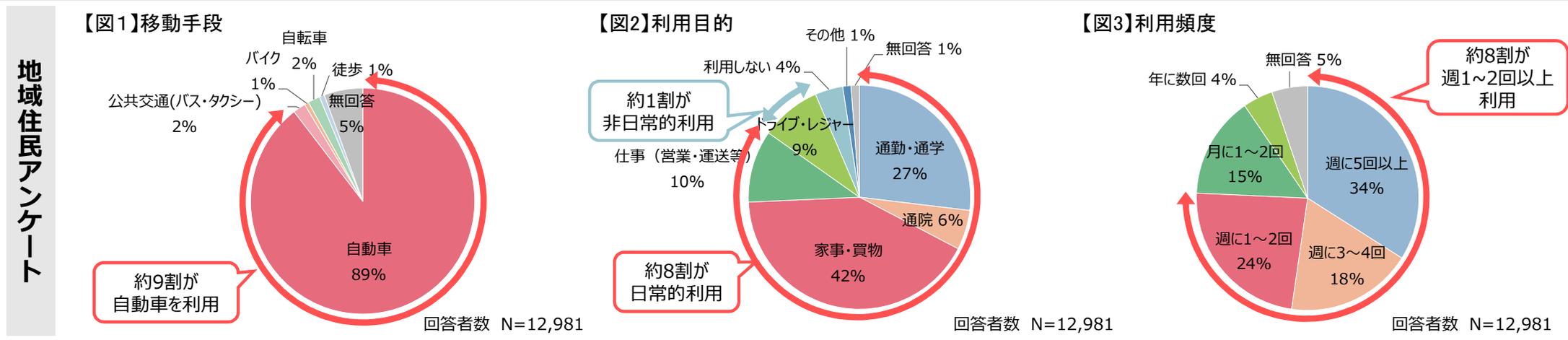
【図6】アンケート調査を知ったきっかけ



2-3. 第2回地域の意見聴取の結果(アンケート調査)/利用状況①

- ◆ 移動手段は、地域住民アンケートでは自動車約9割、事業者アンケートは乗用車が約6割、貨物車が約4割を占めた。
- ◆ 利用目的は、地域住民アンケートでは日常利用が約8割、非日常利用が約1割を占めた。事業者アンケートでは「運送・運輸」が約4割、通勤や営業で約5割を占めた。
- ◆ 利用頻度は、地域住民アンケートでは週に1～2回以上の利用が約8割、事業者アンケートでは週1～2回以上の利用が約9割を占めた。
- ◆ 対象範囲の道路は、多くの方が仕事や日常的に高頻度で利用しており、移動には自動車を使っている。

問1 対象範囲(山形中心市街地南西部)の道路利用についてお聞きします。

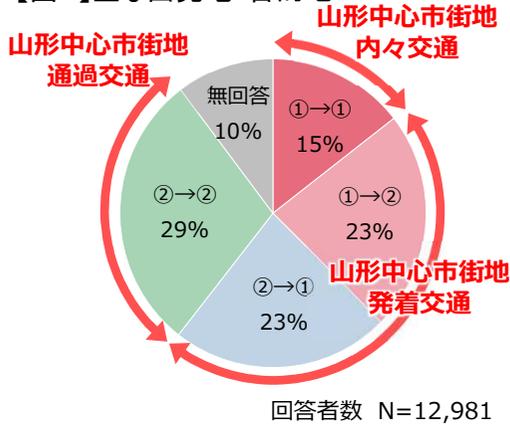


- ◆ 対象範囲利用者の出発地・目的地割合は、地域住民アンケート・事業者アンケートで「山形中心市街地発着交通」が約5割と占めており、対象範囲は内々・発着・通過交通が混在している。
- ◆ 出発地・目的地別における利用目的は、地域住民アンケートでは、山形中心市街地を通過する通勤・通学の割合が高くなっている。事業者アンケートでは、山形中心市街地発着交通で運送・運輸や営業の割合が高い。
- ◆ 対象範囲は、通勤通学時間帯に内々・発着・通過交通が混在すると考えられ、利用交通の分担を図る必要がある。

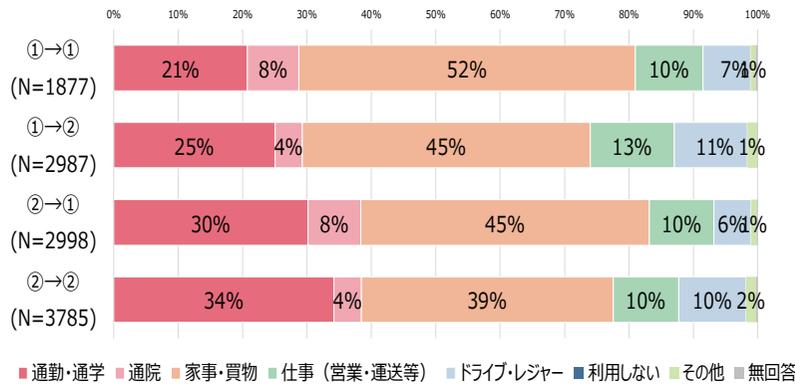
問1 対象範囲(山形中心市街地南西部)の道路利用についてお聞きします。(主な出発地・目的地)

地域住民アンケート

【図1】主な出発地・目的地

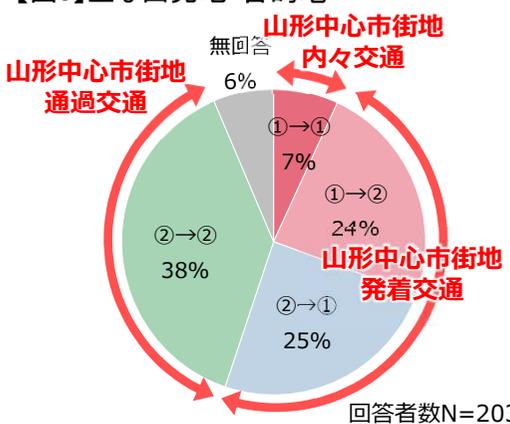


【図2】主な出発地・目的地別における利用目的の集計

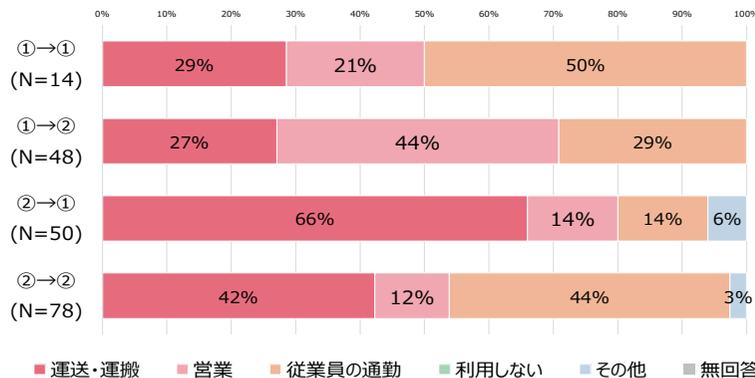


事業者アンケート

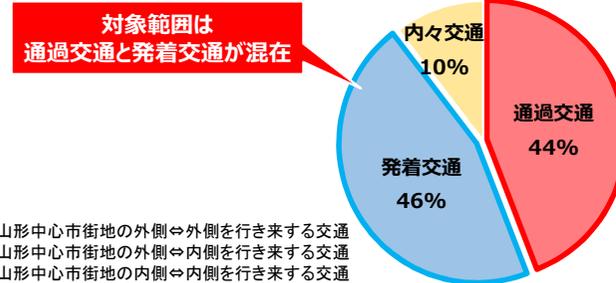
【図3】主な出発地・目的地



【図4】主な出発地・目的地別における利用目的の集計



【参考】対象範囲の交通内訳

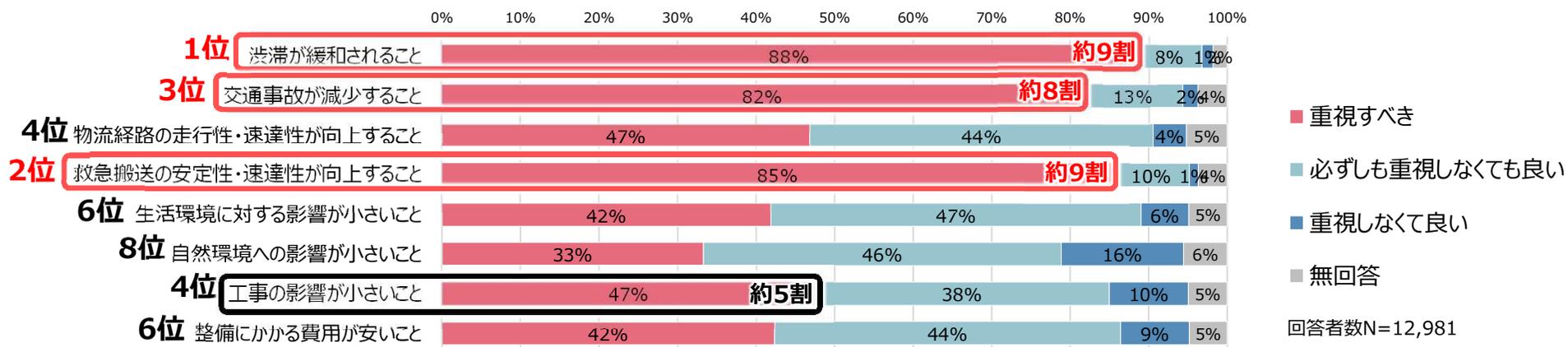


資料: ETC2.0データ (R3.10月(平日))
 上記(主)山形上山線の★印箇所

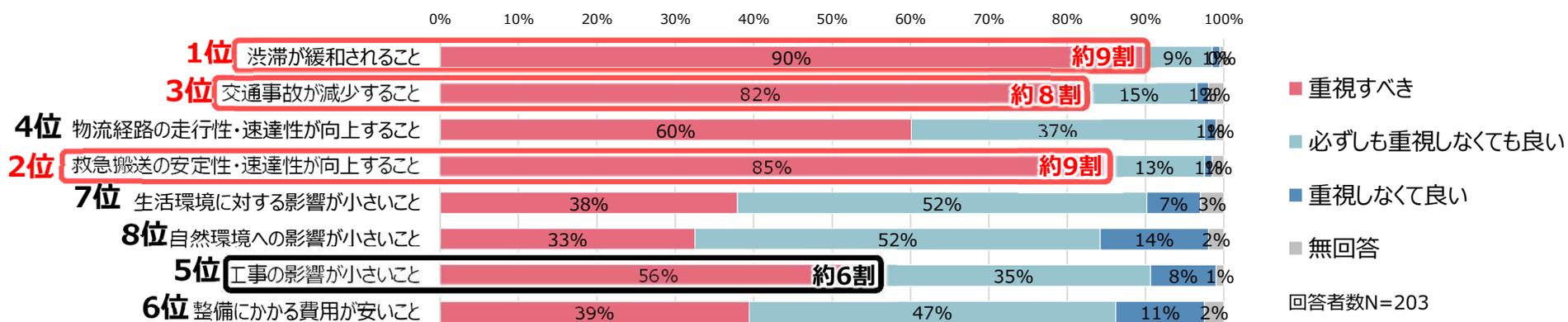
- ◆ 対策案を検討する際に重視すべき項目について、地域住民アンケートでは「渋滞が緩和されること」を重視すべきが約9割と最も多く、次いで「救急搬送の安定性・速達性が向上すること」、「交通事故が減少すること」の順に重視すべきが多かった。
- ◆ 事業者アンケートでも、「渋滞が緩和されること」を重視すべきが約9割と最も多く、次いで「救急搬送の安定性・速達性が向上すること」、「交通事故が減少すること」の順に重視すべきが多かった。
- ◆ 政策目標以外では、地域住民、事業者ともに「工事の影響が小さいこと」を重視すべきが約5～6割となった。

問2 対象範囲の課題解決のための対策案を検討する際に重視すべきと思われる度合を「重視すべき」「必ずしも重視しなくても良い」「重視しなくて良い」から選んでください。

地域住民アンケート



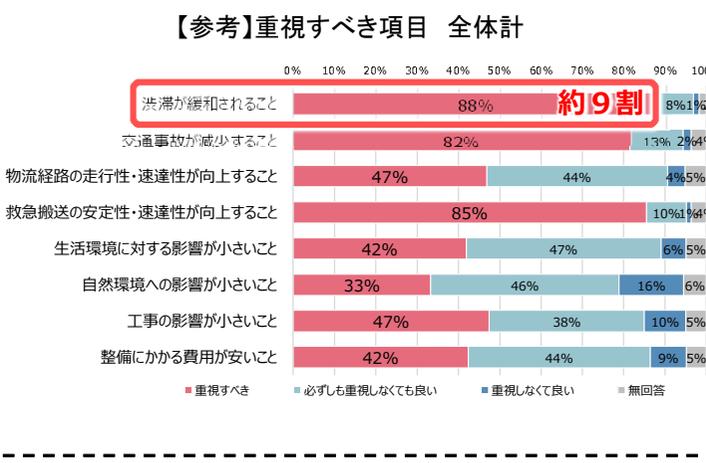
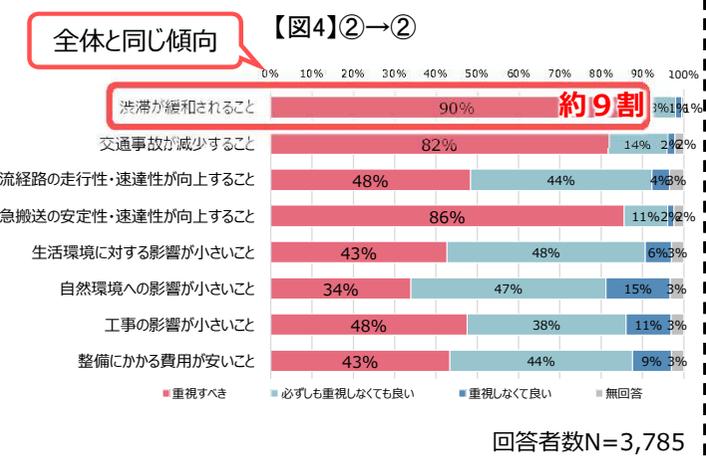
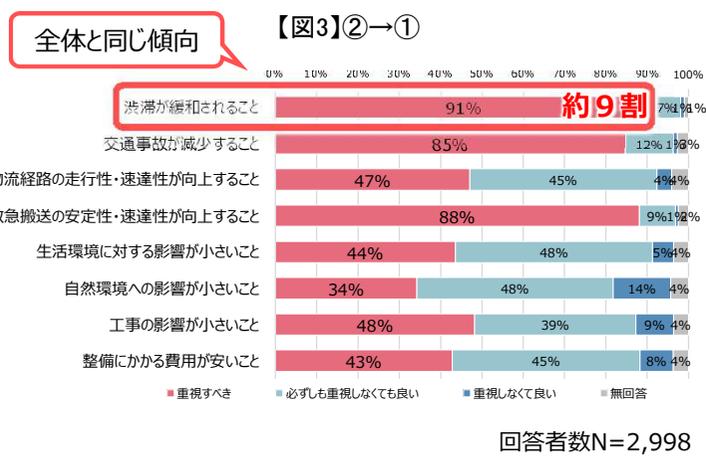
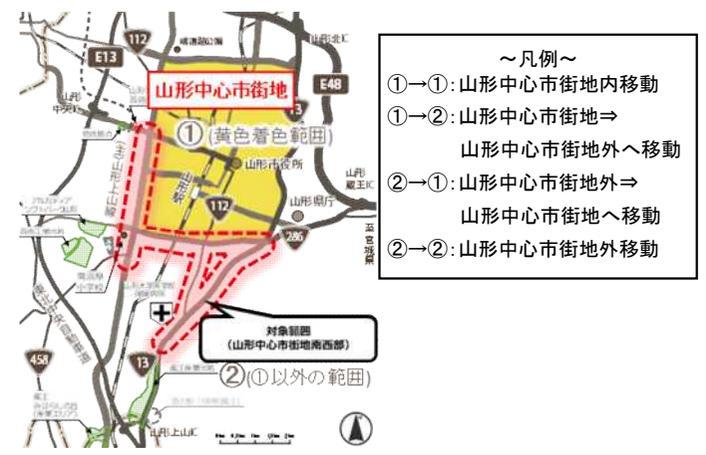
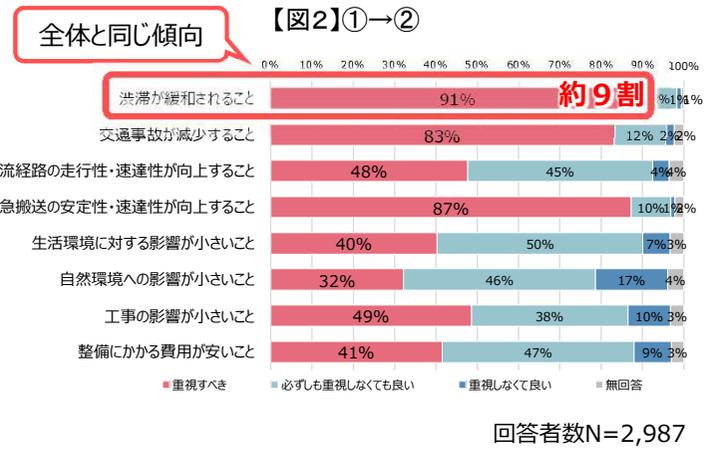
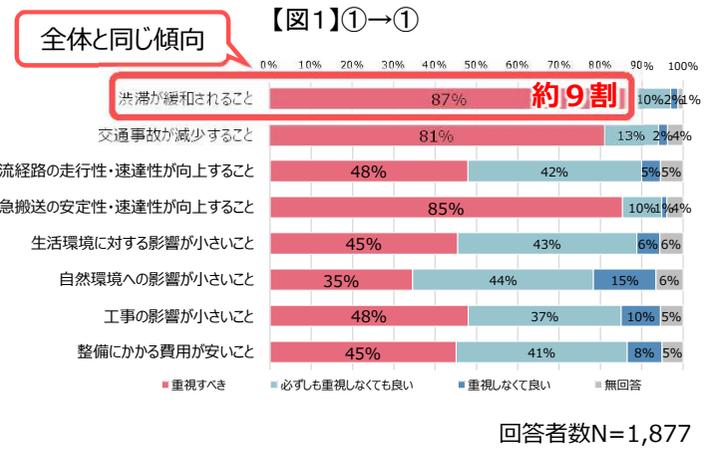
事業者アンケート



◆ 出発地・目的地別における重視すべき項目は、全体傾向と同じく「渋滞が緩和されること」を重視すべきが約9割と最も多く、次いで「救急搬送の安定性・速達性が向上すること」、「交通事故が減少すること」の順に重視すべきが多かった。

問2 対象範囲の課題解決のための対策案を検討する際に重視すべきと思われる割合を「重視すべき」「必ずしも重視しなくても良い」「重視しなくて良い」から選んでください。

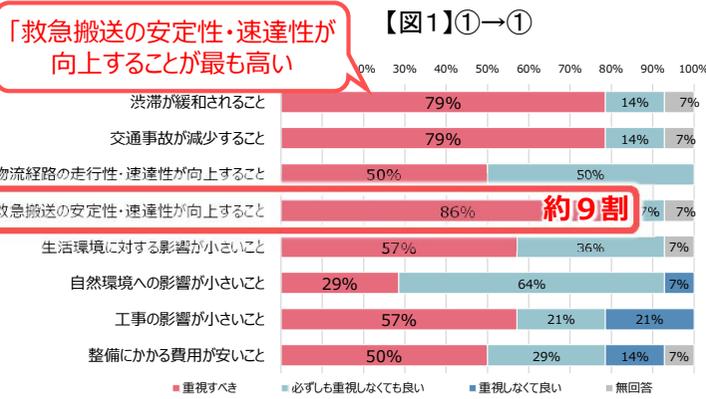
地域住民アンケート：出発地・目的地別の回答割合



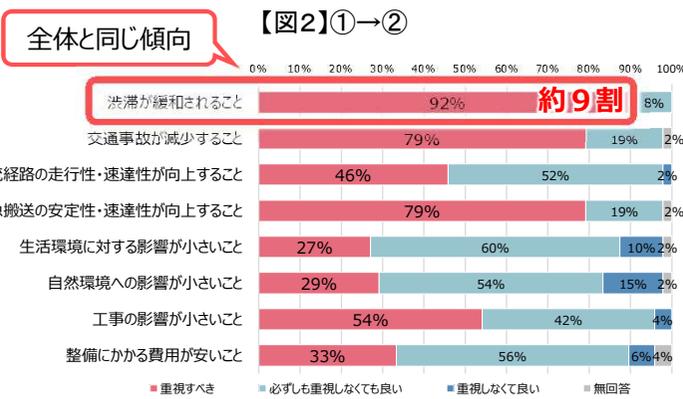
- ◆ 山形中心市街地の発着や通過交通は全体傾向と同じく「渋滞が緩和されること」を重視すべきが約9割と最も多いが、山形中心市街地内移動する交通は「救急搬送の安定性・速達性が向上すること」が約9割と最も多かった。
- ◆ 出発地・目的地別における重視すべき項目は、山形中心市街地外から山形中心市街地への移動者が「物流経路の走行性・速達性が向上すること」を重視すべきが約7割と他と比較して高い。
- ◆ 山形中心市街地外からの出発や通過交通による運搬の利用が多く、「物流経路の走行性・速達性が向上すること」が高い傾向となったと考えられる。

問2 対象範囲の課題解決のための対策案を検討する際に重視すべきと思われる割合を「重視すべき」「必ずしも重視しなくても良い」「重視しなくて良い」から選んでください。

事業者アンケート：出発地・目的地別の回答割合



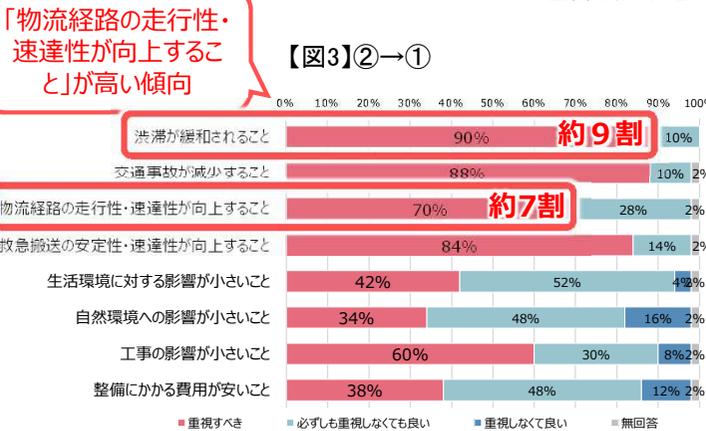
回答者数N=14



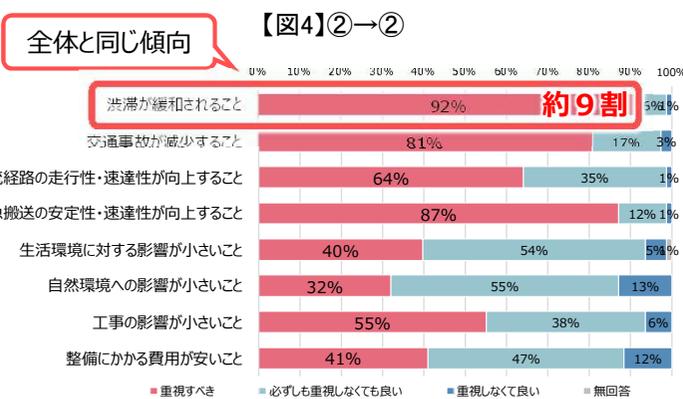
回答者数N=48



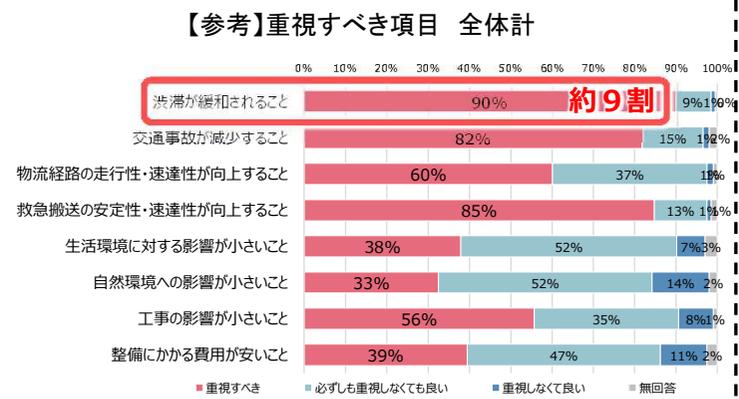
～凡例～
 ①→①: 山形中心市街地内移動
 ①→②: 山形中心市街地→山形中心市街地外へ移動
 ②→①: 山形中心市街地外→山形中心市街地へ移動
 ②→②: 山形中心市街地外移動



回答者数N=50



回答者数N=78



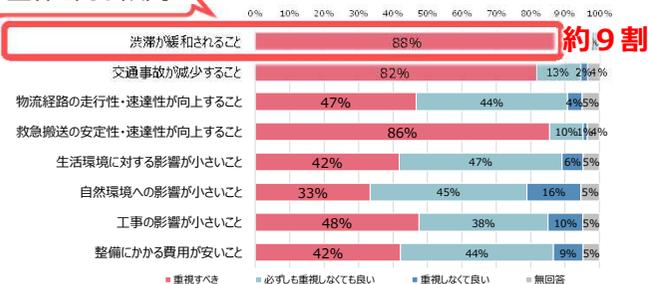
- ◆ 居住地別では全体傾向と同じく「渋滞が緩和されること」を重視すべきが約8~9割と最も多い。
- ◆ 県外居住者で「物流経路の走行性・速達性が向上すること」を重視すべきが約7割と全体傾向・他地域と比較して高い。

問2 対象範囲の課題解決のための対策案を検討する際に重視すべきと思われる度合を「重視すべき」「必ずしも重視しなくても良い」「重視しなくて良い」から選んでください。

地域住民アンケート：居住地別の回答割合

全体と同じ傾向

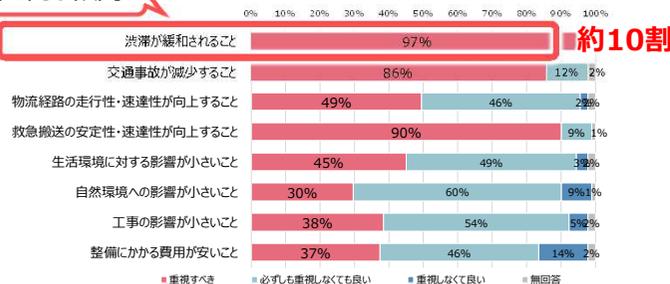
【図1】山形市



約9割

全体と同じ傾向

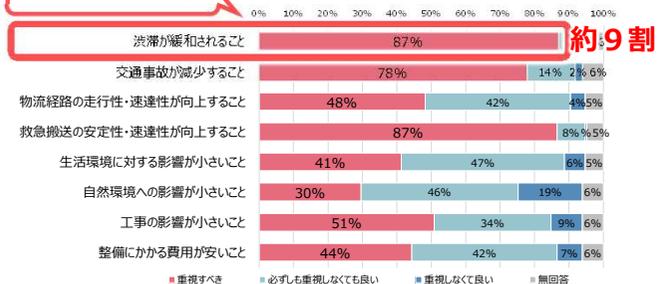
【図2】上市市



約10割

全体と同じ傾向

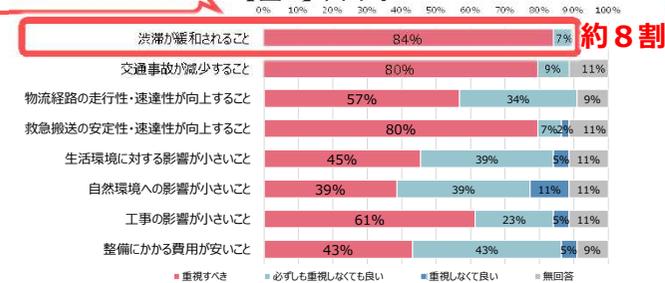
【図3】山辺町



約9割

全体と同じ傾向

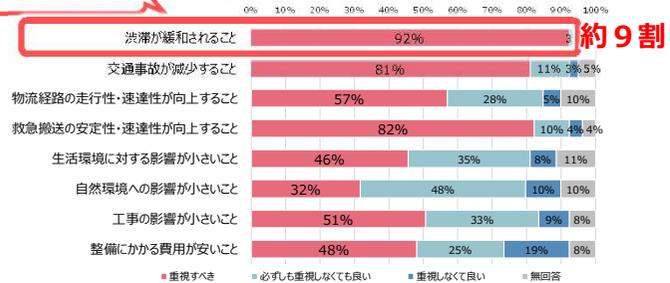
【図4】中山町



約8割

全体と同じ傾向

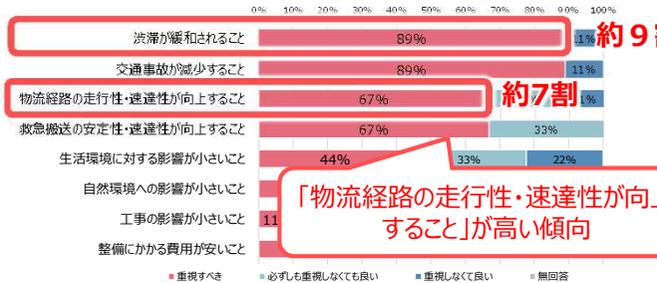
【図5】県内その他



約9割

全体と同じ傾向

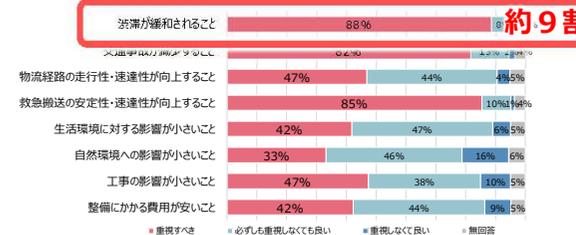
【図6】県外



約9割

「物流経路の走行性・速達性が向上すること」が高い傾向

【参考】重視すべき項目 全体計



約9割

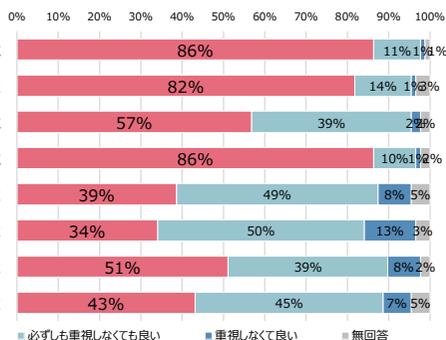
- ◆ 業種別における重視すべき項目は、運輸業で「物流経路の走行性・速達性が向上すること」を重視すべきが約8割と全体傾向・他業種と比較して高い。
- ◆ 物流を行う運輸業で「物流経路の走行性・速達性が向上すること」が高いことから、「円滑な物流ルートの確保」が求められている。

問2 対象範囲の課題解決のための対策案を検討する際に重視すべきと思われる度合を「重視すべき」「必ずしも重視しなくても良い」「重視しなくて良い」から選んでください。

事業者アンケート：業種別の回答割合

全体と同じ傾向

【図1】製造業

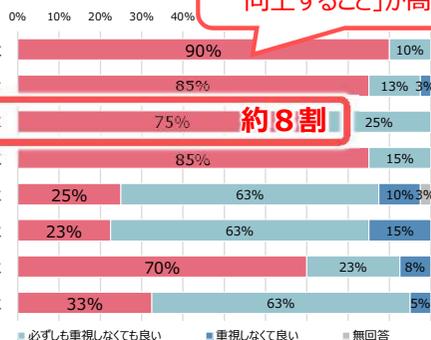


回答者数N=88

【図2】運輸業

「物流経路の走行性・速達性が向上すること」が高い傾向

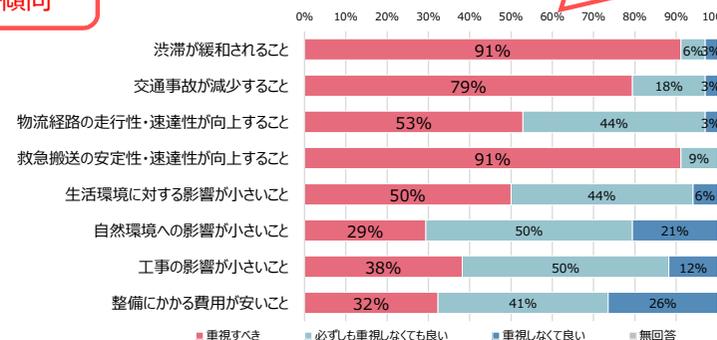
物流経路の走行性・速達性が向上すること 約8割



回答者数N=40

【図3】サービス業

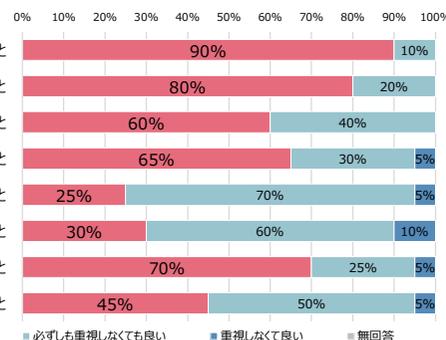
全体と同じ傾向



回答者数N=34

全体と同じ傾向

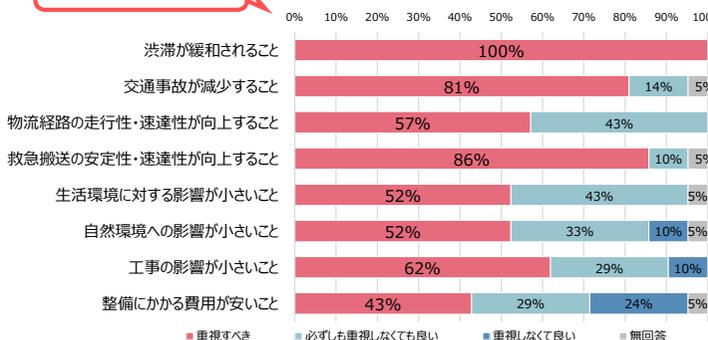
【図4】卸売業



回答者数N=20

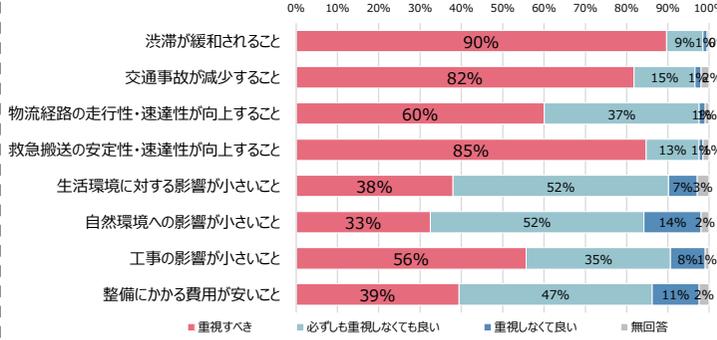
全体と同じ傾向

【図5】その他



回答者数N=21

【全体】重視すべき項目計



- ◆ 重視すべき理由として、「渋滞が緩和されること」に関する意見が最も多く、次いで「交通事故が減少すること」に関する意見が多かった。
- ◆ 渋滞では、「渋滞緩和により自ずと事故解消、物流向上、救急搬送の安定が図られる」等の意見、交通事故では、「住宅密集地であり、安全性が優先」等の意見が寄せられた。

問3 問2でチェックした項目について、そう思われる理由をお書きください。

項目	主な意見
渋滞が緩和されること 【6,028件】(住民5,931件、事業者97件)	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞が解消されれば、自ずと事故解消、物流向上、救急搬送の安定が図られるから。(地域住民) ・渋滞はストレスを招き、事故などにつながる。(地域住民) ・渋滞緩和により移動時間の予測ができる。(事業者) ・渋滞の緩和により、通勤・物流ルートの分散ができ、事故の減少にも繋がる。(事業者)
交通事故が減少すること 【1,287件】(住民1,273件、事業者14件)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校の通学路となっているため、安全を確保したい。(地域住民) ・道路幅員が狭いので大型車同士の並行走行が困難に近く、危険で事故が起きやすい。(地域住民) ・住宅密集地であり、安全性が優先と考えるため。(事業者)
物流経路の走行性・定時性が向上すること 【106件】(住民88件、事業者18件)	<ul style="list-style-type: none"> ・幅員が狭いため、大型車の通行に支障をきたす。(地域住民) ・県内外の人が大勢集まり、経済的・物流的に見ても中心になる場所だから。(地域住民) ・業務上、円滑な道路交通を求めている。(事業者)
救急搬送の安定性・速達性が向上すること 【383件】(住民377件、事業者6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣に大学病院があり、救急車の通行が頻繁であり、救急、通行に支障が多いと考えられる。(地域住民) ・救急搬送の迅速化は人命に関わるから。(地域住民) ・救急搬送の時、道路2車線が狭いので片側に寄せるのが大変。(地域住民)
生活環境に対する影響が小さいこと 【229件】(住民228件、事業者1件)	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線に住む以外の人利用も多いため、日常生活に関係することを最優先にすべき。(地域住民) ・沿線住民にとっては支障物件として移転となると負担が大きすぎるので、生活環境に配慮してほしい。(地域住民) ・通行することより住んでいる人の環境を重視すべき。(地域住民)
自然環境への影響が小さいこと 【110件】(住民106件、事業者4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・一度失ってしまった自然を取り返すには長い年月が必要、便利さだけを求めるのは慎重にすべき。(地域住民) ・道路の役割は重視されるべきだが、自然破壊してまで重視するものではない。(地域住民) ・費用を抑えて、尚且つ環境への影響を最小限にするべき。(事業者)
工事の影響が小さいこと 【166件】(住民164件、事業者2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・工事期間中に渋滞が多発するようだと逆効果になる。(地域住民) ・現時点で通勤、帰宅時間にはかなり混雑するため、工事中に更なる混雑を招くと大変なことになることは目に見えており、影響が少ない方法を取るべき。(地域住民) ・道路が渋滞している状況で工事が非常に多い。道路も狭いが、救急車両がスムーズに通行できないのを何回も見ている。(事業者)
整備にかかる費用が安いこと 【157件】(住民153件、事業者4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が減少するなか、過大な投資とならないよう、整備費用は低く抑えていただきたい。(地域住民) ・費用対効果が高くなるようにするべき。(地域住民) ・人口減少により税収が不足するであろう中において、ある程度の経済性(コスト削減)は重視すべき。(事業者)

- ◆ 「道路構造・施設に関する意見」が最も多く、次いで「冬期交通環境に関する意見」が多かった。
- ◆ 道路構造・施設では、「信号の少ない道路」、「歩行者・自転車が安心して走行できる道路づくり」等に関する意見、冬期交通環境では「冬期の走行が安全にできること」等に関する意見が寄せられた。

問4 問2でチェックした項目以外で、重視すべきと思われることをお書きください。

項目	主な意見
道路構造・施設に関する意見 【1,491件】(住民1,459件、事業者32件)	<ul style="list-style-type: none"> ・物流、救急、観光等の長距離と急ぎ目的を中心に考え、信号の少ない道路を考えてほしい。(地域住民) ・健康志向が高まっているので、歩行者・自転車等が安心して走行できる道路づくりをしてほしい。(地域住民) ・車道幅員と歩道をしっかり確保してほしい。(地域住民) ・山形中心市街地部分道路に路側帯が狭い道路が多く、改善すべきである。(事業者)
冬期交通環境に関する意見 【1,236件】(住民1,208件、事業者28件)	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期の走行が安全にできること。(地域住民) ・冬期、除雪した雪が道路の側面や信号の柱のあたりに高く積み上げて、見通しが悪く危険である。(地域住民) ・冬期間は除雪作業も入り、尚更渋滞し、道幅も狭く大変危険な為、走行環境を早急に確保してほしい。(地域住民) ・特に冬期間は事故が増えるので安全対策を重視してほしい。(事業者)
整備方針に関する意見 【454件】(住民450件、事業者4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・山形市街地の環状道路として、きちんとした4車線化の整備が必要。(地域住民) ・大型貨物自動車のより大型化に対応するための道路幅員の確保。(地域住民) ・他県に負けないぐらいの環境づくり、道路が出来れば、会社・工場が出来、人も集まって来る、人口流出の歯止めの為良い街づくりをお願いしたい。(地域住民)
維持管理に関する意見 【363件】(住民358件、事業者5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期の除雪体制の整備。(地域住民) ・除雪費を含めた道路の維持管理費の安さ。(地域住民) ・冬期間、県庁前にスタックしているトラック等が多数いるため、除雪だけではなく塩カル剤をしっかりと散布してほしい。(地域住民)
早期整備に関する意見 【293件】(住民290件、事業者3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の期間を考慮し、短期集中型の工事の実現。交通渋滞の緩和の為、工事が渋滞増幅にならないようにしてほしい。(地域住民) ・山形市近郊を含め、企業が少なく、若者が県外に就職してしまうので、流通環境を良くするため、アクセス道路を整備し、企業誘致に直結させる為、早期の完成が必要。(地域住民)
道路整備に否定的な意見 【136件】(住民135件、事業者1件)	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少に伴い、新規路線の新設より道路修繕費に予算を使うべき。(地域住民) ・今後少子化で車の利用が少なくなると思うので、検討する必要がある。(地域住民) ・無駄な道路拡張が多いと思う。公共交通を整備し自家用車を減らすべき。(地域住民)
その他(防災・災害、アクセス性、など) 【705件】(住民689件、事業者16件) ※	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の通行はもとより、災害が発生した時も確実に通行できる道路環境が確保されること。(地域住民) ・幹線道路へのアクセス性が確保されること。(地域住民) ・道路を整備するだけではなく、その周辺の自然環境・経済環境も含めて都市計画を立案し、市民の生活の発展や利便性を考慮に入れ、経済効果も上げる方法を模索してほしい。(事業者)

※その他意見総数2,006件のうち、「政策目標及び配慮事項」と重複した意見1,272件を除く

- ◆ 重視すべき理由として、「渋滞が緩和されること」に関する意見が最も多く、次いで「救急搬送の安定性・速達性が向上すること」に関する意見が多かった。
- ◆ 渋滞では「観光交通と生活交通の混在」等の意見、救急搬送では「搬送時の移動時間の短縮」等の意見が寄せられた。

問 対策案を検討する際に重視すべきと思われる項目とその理由について教えてください。

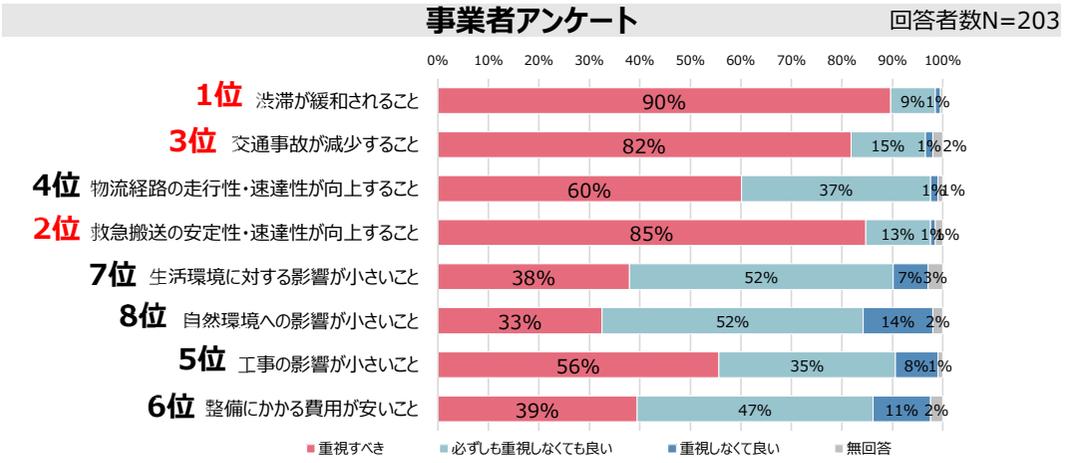
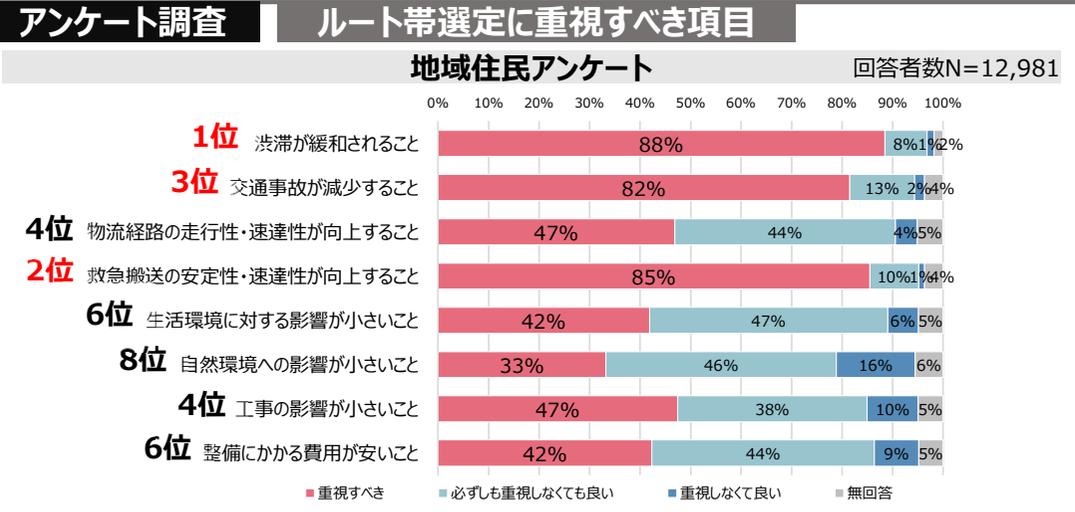
	項目	主な意見
重視すべき項目	渋滞が緩和されること 【20件】	<ul style="list-style-type: none"> ・当該路線は山形市中心市街地西側において、交通量も多く南北縦断のための重要な路線であり、利用するにあたり改善が必要。(自治体) ・(主) 山形上山線周辺は観光交通と生活交通の混在により、混雑が発生しているため、それらを分離することが出来る対策が望ましい。(観光協会) ・渋滞で遅れないために通勤経路をショートカット等し、慣れない道での事故が発生するため、渋滞緩和により主要道を通るようにするべきだから。(製造業)
	交通事故が減少すること 【16件】	<ul style="list-style-type: none"> ・最優先は生徒の登下校時の安全確保で、過去に(主) 山形上山線の交差点で大型トラックと生徒が接触した事例もあり、渋滞が緩和され、交通事故が減少することを重視していただきたい。(教育機関) ・社員のもらい事故や、事故渋滞で通勤に影響あるため改善されると助かる。(製造業)
	物流経路の走行性・定時性が向上すること 【8件】	<ul style="list-style-type: none"> ・大型車が通る重要な路線であり、工業団地もあるので物流は重視すべきである。(自治体) ・(主) 山形上山線を利用する事業者も多いため、渋滞が緩和されて物流経路の走行性・速達性が向上することが望ましい。(トラック協会)
	救急搬送の安定性・速達性が向上すること 【16件】	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急搬送や高度医療を受ける場合は山形市の医療機関に頼っている状況からも、移動時間の短縮が求められる。(経済団体) ・道路幅が狭く救急車が通過できなければ、急いでいるにも関わらず進行出来ないという救急隊のストレスと道を譲ってくれる運転手も幅寄せ出来ずストレスを感じ、傷病者、その家族が医療機関への到着が遅くなれば、不安感等は増すと思う。(消防機関)
	生活環境に対する影響が小さいこと 【5件】	<ul style="list-style-type: none"> ・支障物件等の沿道環境への影響や中央分離帯設置により沿道店舗の利用方法が変わることで住民・企業の負担が大きく、理解や協力を得ることが重要。(自治体) ・交通量が多くなり、騒音やごみの投棄は発生したりするので、影響の少ないことが重視すべきと思った。(製造業)
	自然環境への影響が小さいこと 【6件】	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性を向上させるためにやみくもに整備するのではなく、農地や景観を考慮したほうがよい。(製造業)
	工事の影響が小さいこと 【8件】	<ul style="list-style-type: none"> ・国道112号は工事が多く、通行に支障があったので、道路を整備する際は最小限の影響で、工事中の渋滞が起きないようにしてほしい。(経済団体) ・現道の工事により通学路の安全性が影響しないようにすることが重要である。(教育機関)
	整備にかかる費用が安いこと 【4件】	<ul style="list-style-type: none"> ・整備には自治体の負担も生じることから、経済性も十分考慮したうえで検討していただきたい。(自治体) ・整備費は安全性等の重視すべき事項には対応すべきであるが、コスト削減の努力はする必要がある。(経済団体)

- ◆ 「道路構造・道路線形に関する意見」が最も多く、次いで「冬期交通環境に関する意見」が多かった。
- ◆ 道路構造・道路線形では、「車線幅員の配慮」「信号数の削減」等に関する意見、冬期交通環境では、「雪道対策を考慮した幅員や側道の確保」等に関する意見が寄せられた。

問 前述の重視すべきと思われる8項目以外に、重視すべきと思われることをお書きください。

項目	主な意見
道路構造・道路線形に関する意見 【14件】	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート帯に加え、アクセスコントロールの有無（平面交差、立体交差）について、自治体のまちづくりに応じた検討をお願いしたい。（自治体） ・幅員が狭いと渋滞時に緊急車が走行するスペースが確保できなくなるため、車線ごとの幅員について、配慮していただきたい。（消防機関） ・信号の設置は、立体交差を含めて交差点数を削減し、信号設置数を減らすように検討していただきたい。（警察） ・安全に走行でき渋滞が緩和されるように道幅を広くとり、中央分離帯、右折車線の設置を要望。（製造業）
冬期交通環境に関する意見 【10件】	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期は除雪による堆雪が道路幅員を更に狭くする。（自治体） ・冬期における利便性の配慮。（経済団体） ・整備では雪道対策を考慮した幅員や側道が確保されることを望む。（医療機関） ・除雪がしっかりしていて、通れる道路が必要。（製造業）
工事期間中の対応に関する意見 【3件】	<ul style="list-style-type: none"> ・事業期間及び工事時間帯の配慮。（経済団体） ・バイパス案（現道活用案）の場合、工期の長期化や工事渋滞の対策が必要と思われる。（製造業）
整備後の交通環境変化に関する意見 【3件】	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに渋滞箇所や危険箇所が発生しないよう、ご配慮いただきたい。（自治体） ・現在造成工事が進められている道の駅「やまがた蔵王」がオープンした際に、車の流れが変わってくるのが想定されるので、バイパス設計時においてもこの辺を考慮しておく必要がある。（経済団体）
整備方針に関する意見 【2件】	<ul style="list-style-type: none"> ・既存市道のネットワークが分断されることの無いよう、ご配慮いただきたい。（自治体） ・周辺の道路との接続が円滑であること。（観光協会）
早期整備に関する意見 【3件】	<ul style="list-style-type: none"> ・整備に要する期間が短期であることがそのための円滑な用地取得。（タクシー協会）
維持管理に関する意見 【1件】	<ul style="list-style-type: none"> ・別線整備案の場合は、現道は自治体に移管される可能性があり、新たな道路の管理費用分を検討する必要がある。（自治体）
道路のアクセス性に関する意見 【3件】	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺道路との接続が円滑に行くことが可能であること。（観光協会）
都市計画に関する意見 【1件】	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスタープランや既存の都市計画決定との整合を図ること。（自治体）
災害に関する意見 【1件】	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨、大雪や地震など、災害発生時における交通機能の強化が図られること。（自治体）

- ◆ ルート帯選定時に重視すべき項目として、「渋滞が緩和されること」、「交通事故が減少すること」、「救急搬送の安定性・速達性が向上すること」が特に求められており、物流に関連する回答者からは「物流経路の走行性・速達性が向上すること」が求められている。
- ◆ その他の重視事項として、「道路構造・施設」、「冬期交通環境」、「整備方針」に関する意見が寄せられた。



■ 業種別重視すべき項目
 ・運輸業で「物流経路の走行性・速達性が向上すること」を重視すべきが全体傾向・他業種と比較して高い。

アンケート調査、企業・関係機関ヒアリング | その他の重視事項

■ 道路構造・施設に関する意見

- ・物流、救急、観光等の長距離と急ぎ目的を中心に考え、**信号の少ない道路**を考えてほしい。（地域住民）
- ・健康志向が高まっているので、**歩行者・自転車等が安心して走行できる道路づくり**をしてほしい。（地域住民）
- ・**車道幅と歩道をしっかり確保**してほしい。（地域住民）
- ・ルート帯に加え、アクセスコントロールの有無について、**自治体のまちづくりに応じた検討**をお願いしたい。（自治体）

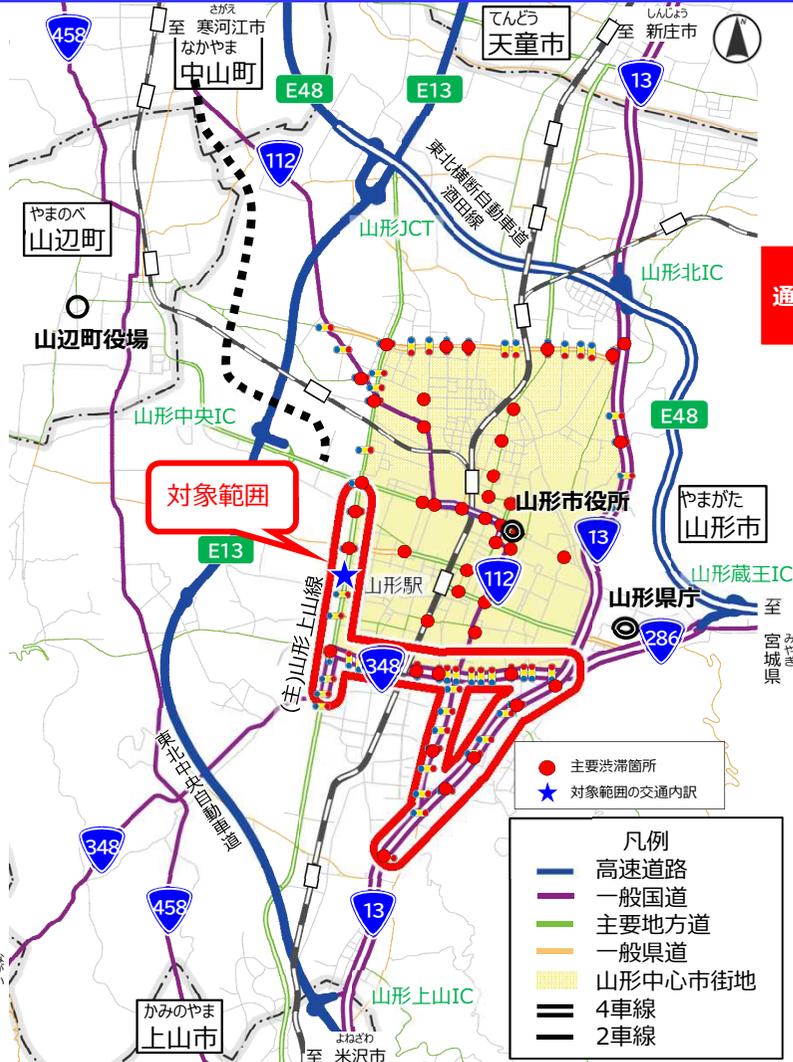
■ 冬期交通環境に関する意見

- ・**冬期の走行が安全にできること**。（地域住民）
- ・冬期、除雪した雪が道路の側面や信号の柱のあたりに高く積み上げて、**見通しが悪く危険**である。（地域住民）
- ・**雪道対策を考慮し幅員や側道が確保**されること。（医療機関）

■ 整備方針に関する意見

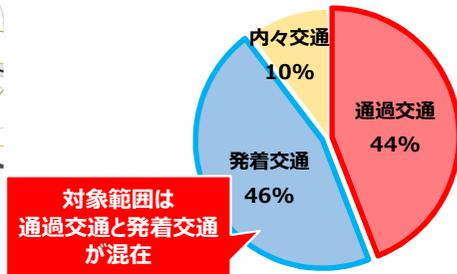
- ・山形市街地の環状道路として、きちんとした**4車線の整備が必要**。（地域住民）
- ・大型貨物自動車の、**大型化に対応するための道路幅員の確保**。（事業者）
- ・**既存市道のネットワークが分断されること**の無いよう、ご配慮いただきたい。（自治体）

- ◆ 対象範囲は主要渋滞箇所や信号交差点が点在しており、**通過・発着交通**や**生活・物流・観光交通**が混在している状況である。
- ◆ 意見聴取結果では、「渋滞が緩和されること」を求める意見が最も多く寄せられ、渋滞緩和によりその他政策目標への好影響が想定される意見も挙げられており、渋滞緩和に向けては、**利用交通の分担が必要**となっている。
- ◆ また、その他重視事項として「道路構造・施設」や「冬期交通環境に関する意見」に関する意見が多く寄せられ、「**信号の少ない道路**」や「**歩行者・自転車が安心して走行できる道路**」、「**雪道対策を考慮した幅員が確保された道路**」が求められており、対応方針への反映が必要である。



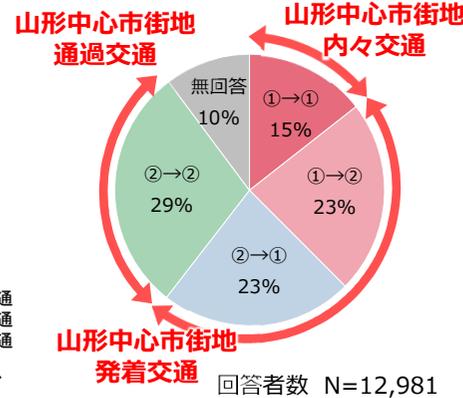
【図1】対象範囲の信号交差点・主要渋滞箇所

【図2】対象範囲の交通内訳



通過交通：山形中心市街地の外側⇄外側を行き来する交通
 発着交通：山形中心市街地の外側⇄内側を行き来する交通
 内々交通：山形中心市街地の内側⇄内側を行き来する交通
 資料：ETC2.0データ（R3.10月（平日））、
 （主）山形上山線

【図3】主な出発地・目的地（地域住民アンケート）



【図4】対象範囲の交通状況



渋滞緩和に関する意見

- ・渋滞が解消されれば、自ずと**事故解消、物流向上、救急搬送の安定**が図られる。（地域住民）
- ・渋滞の緩和により、**通勤・物流ルート**の分散ができ、**事故の減少**にも繋がる。（事業者）
- ・（主）山形上山線周辺は**観光交通と生活交通の混在**により、**混雑**が発生しているため、それらを**分離**することが出来る対策が望ましい。（観光協会）

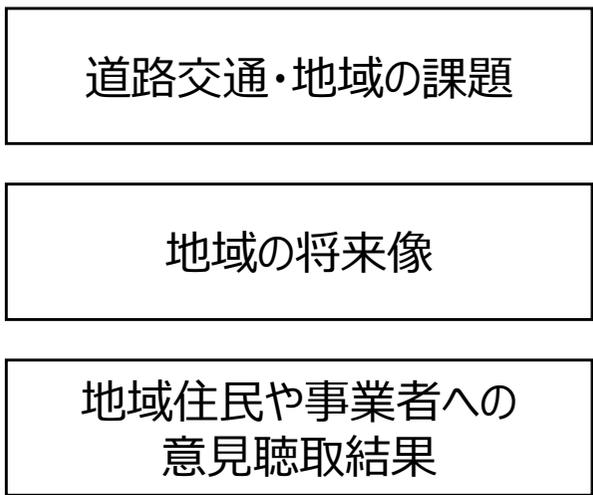
道路構造・施設に関する意見

- ・長距離と緊急車両を中心に考え、**信号の少ない道路**を考えてほしい。（地域住民）
- ・健康志向が高まっているので、**歩行者・自転車等が安心して走行できる道路**づくりをしてほしい。（地域住民）
- ・**雪道対策を考慮した幅員や側道**が確保されることを望む。（医療機関）

3. 対応方針(原案)の検討

- ◆ 当該地域の道路交通状況や、地域の課題等を踏まえて政策目標を設定し、これを達成するための機能を有する対策案を複数設定。
- ◆ 対策案を検討する上では、生活環境、自然環境、工事の影響、経済性などに配慮。

○当該地域の政策目標



政策目標

以下の項目を目的に、快適かつ安全な移動の実現を図ると共に、物流・産業、医療を支援する道路ネットワークの確保

- 必要な交通容量の確保
- 安全な交通環境の確保
- 円滑な物流ルート of 確保
- 安定した救急搬送ルートの確保

○対策案を検討する上での配慮事項

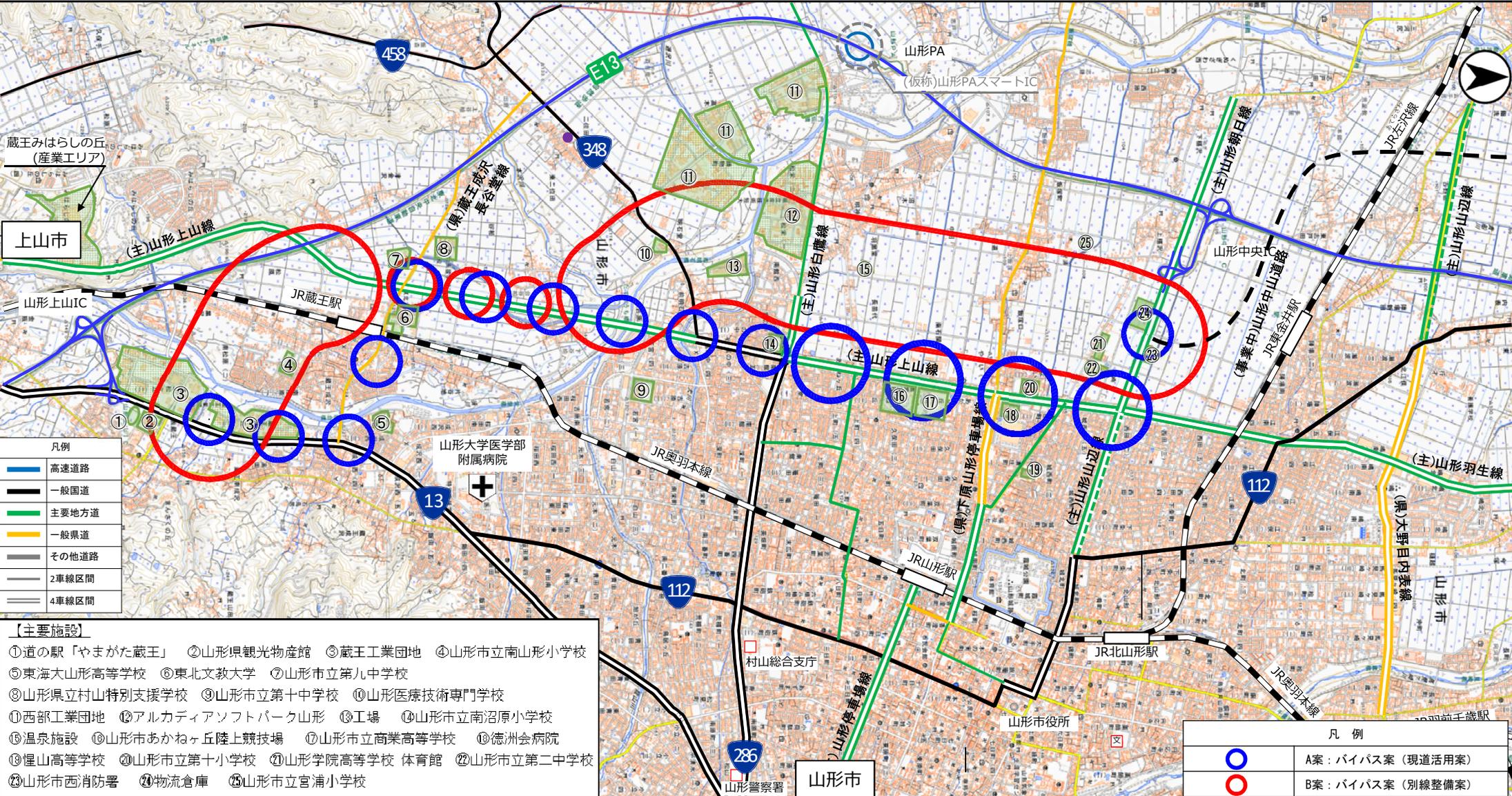
- 生活環境
 - 沿道環境への影響
 - 道路利用者への影響
- 自然環境
 - 地形・自然環境の改変
- 工事の影響
 - 現道交通への影響
- 経済性
 - 整備に関する費用

3-1. ルート帯案の検討(対策案)

◆ 政策目標を達成するための対策案について、主要なコントロールポイントに配慮し2案を設定。

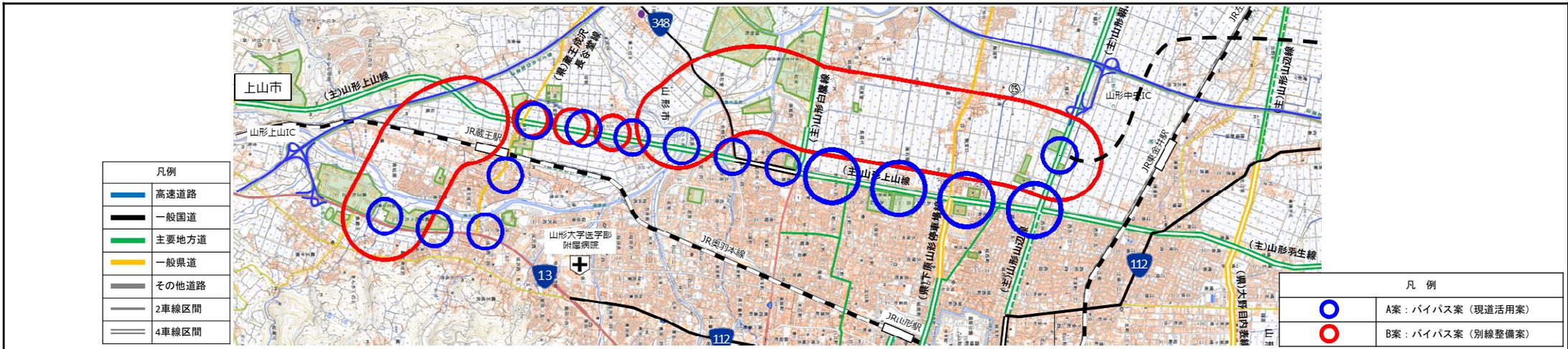
【A案】バイパス案(現道活用案) : 部分拡幅とすることで現道機能強化を図り、課題解消を図る。

【B案】バイパス案(別線整備案) : 課題箇所をバイパスすることで交通転換を図り、課題解消を図る。



3-1. ルート帯案の検討(複数案の比較・評価)

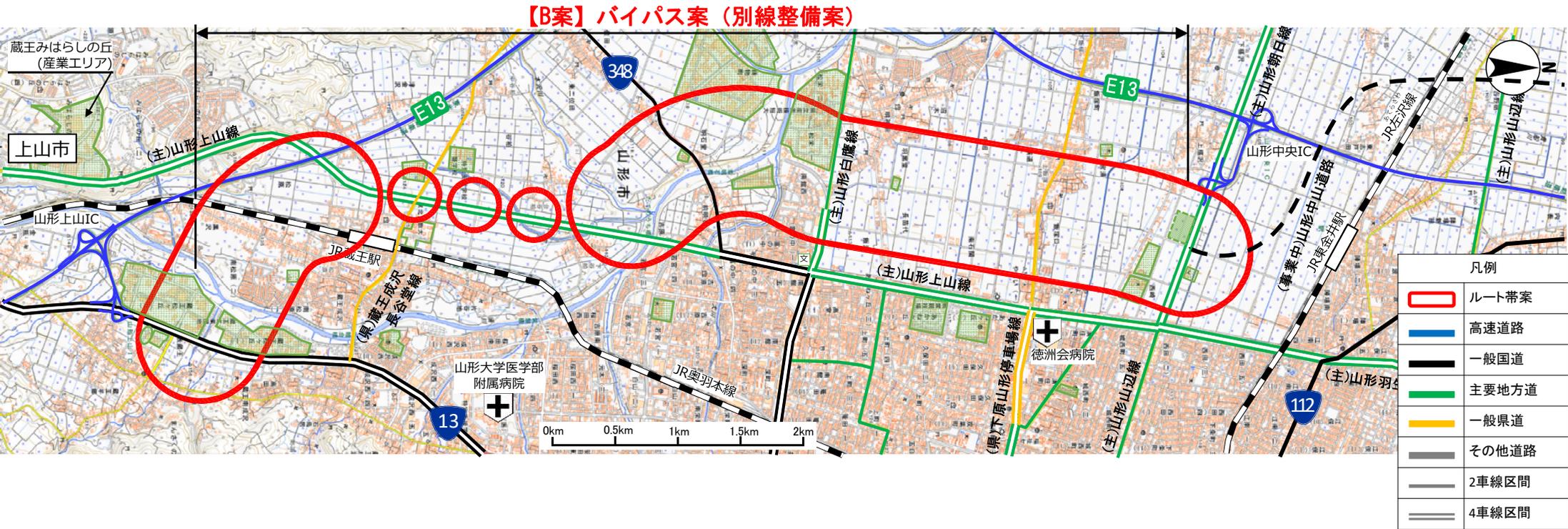
- ◆ 第2回地域意見聴取では、「必要な交通容量の確保」に関する意見が多く寄せられた。
- ◆ 4つの政策目標「必要な交通容量の確保」「安全な交通環境の確保」「円滑な物流ルート of 確保」「安定した救急搬送ルートの確保」、沿線環境等の視点では、B案「バイパス案(別線整備案)」が優れている。



ルート案		【A案】バイパス案（現道活用案）		【B案】バイパス案（別線整備案）	
ルート概要		現道課題箇所の改良を行い、現道を活用する案		バイパス整備を基本とし、一部現道活用により、現道課題箇所を解消する案	
政策目標	必要な交通容量の確保	交通容量の確保	◎ 多車線化により、交通容量が確保される	◎ バイパス整備により、交通容量が確保される	
	安全な交通環境の確保	利用交通の分担	△ 現道の多車線化のため、利用交通の混在は解消されない	◎ バイパス整備により、利用交通の分担が図られる	
		安全な交通環境	○ 多車線化により現道の渋滞緩和が図られ、渋滞に起因する事故が減少	○ バイパス整備により現道の渋滞緩和が図られ、渋滞に起因する事故が減少	
	円滑な物流ルートの確保	物流経路の走行性、速達性の向上	○ 現道の多車線化により物流ルートの渋滞の緩和を図り、走行性・速達性が向上	○ バイパス整備により、現道の渋滞緩和を図り走行性・速達性向上を図るとともに、新たな物流ルートを形成し、産業拠点へのアクセス性が向上	
安定した救急搬送ルートの確保	安定した救急搬送ルート	○ 救急搬送ルートの渋滞の緩和により、救急搬送の安定性、速達性が向上	○ 救急搬送ルートの渋滞緩和により、救急搬送の安定性、速達性が向上するとともに、救急搬送ルートの選択肢が拡大		
その他の配慮事項	生活環境	沿道環境への影響	△ 支障物件数が多いと考えられ、改変範囲が広いため、沿道環境への影響は大きい	○ 支障物件数が少ないと考えられ、沿道環境への影響は少ない	
		道路利用者への影響	△ 市街地部での中央分離帯設置により、出入り制限等の利用形態の改変を伴うため影響は大きい	○ バイパス区間が主であり、現道活用区間における利用形態の改変の影響は小さい	
	自然環境	地形・自然環境の改変	○ 現道改良のため地形改変が小さく、自然環境への影響は小さい	△ 一部区間を除くバイパス整備のため、地形改変が発生し自然環境への影響が懸念される	
	工事の影響	現道交通への影響	△ 現道改良のため、施工時に比較長い区間・長い期間（特に冬期においても）で交通規制が必要となるため、現道交通への影響は大きい	○ 現道の工事は一部区間のみであるため、施工時の現道交通への影響は小さい	
経済性	整備に関する費用		△ 約730～830億円	◎ 約620～720億円	

◎：改善・満足する ○：一部改善・満足する △：他案に比べ劣る アンケート調査及びヒアリング調査により重視すべき事項 ※現時点の概算であり、今後のルート検討、土地利用状況等により、金額が変更となる場合がある。

3-2. 対応方針(原案)の検討



地域住民・事業者・道路利用者への意見聴取、関係団体へのヒアリングの主な意見

【ルート帯案について】
 ○アンケート調査及びヒアリング調査では、政策目標のうち「必要な交通容量の確保」に関する意見が最も多く、「安全な交通環境の確保」、「安定した救急搬送ルートの確保」、「円滑な物流ルートの確保」に関する意見も多く寄せられた。



政策目標の達成見込み及びルート帯選定にあたって重視すべき項目について、意見聴取結果を踏まえて評価

ルート帯案の考え方

○地域の課題を解決するための政策目標である「必要な交通容量の確保」「安全な交通環境の確保」「円滑な物流ルートの確保」「安定した救急搬送ルートの確保」に寄与し、対応策として最も優れている**B案「バイパス案(別線整備案)」**とする。

4. 自治体への意見照会結果

■意見照会の回答（要旨）

自治体名	意見
山形県	<p>一般国道112号山形南道路における<u>対応方針(原案)について同意します。</u></p> <p>一般国道112号及びその周辺道路については、生活交通と物流交通が混在する道路であり、交通混雑が多く、死傷事故が多発すると共に、物流での運送時間増加や救急搬送時間の増加等が課題となっております。このため、<u>山形南道路は、必要な交通容量を確保すると共に、安全な交通環境の確保、円滑な物流ルートの確保や安定した救急搬送ルート等の観点から必要不可欠な道路です。</u></p>

道整第 190 号
令和5年11月10日

国土交通省東北地方整備局長
山本 巧 殿

山形県知事 古村 美栄子
(公印省略)

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について（回答）

令和5年11月8日付け、国東整道一計第12号で意見照会のありました、一般国道112号山形南道路における対応方針（原案）について同意します。

一般国道112号及びその周辺道路については、生活交通と物流交通が混在する道路であり、交通混雑が多く、死傷事故が多発すると共に、物流での運送時間増加や救急搬送時間の増加等が課題となっております。このため、山形南道路は、必要な交通容量を確保すると共に、安全な交通環境の確保、円滑な物流ルートの確保や安定した救急搬送ルート等の観点から必要不可欠な道路です。

山形県としては、当該道路の整備効果の更なる発現に向け、周辺の道路交通状況を踏まえ、(主)山形山辺線（城北～西田）及び(一)下原山形停車場線（やよい）等の周辺アクセス道路の整備の検討を推進してまいります。また、事業の推進に必要な地元調整や関係機関との協議についても協力してまいります。

つきましては、山形南道路の一日も早い完成に向け、調査を促進されますよう、特段の御配慮をお願いします。

担当 山形県県土整備部
道整整備課長 平山
連絡先 023-630-2156

■意見照会の回答（要旨）

自治体名	意見
山形市	<p>一般国道112号山形南道路における<u>対応方針(原案)について同意します。</u></p> <p>一般国道112号は、山形市を起点に酒田市に至る路線で、山形県の村山地方と庄内地方を結ぶ大動脈であり、物流や救急医療搬送など沿線自治体の連携を支えるとともに、観光や産業等による地域振興を促進するうえでも重要な幹線道路です。また、緊急時には東北中央自動車道や山形自動車道を補完する役割も担っており、国土強靱化に資するダブルネットワークの機能強化の面からも、一般国道112号の整備は極めて重要と考えております。</p> <p>しかし、当該地域は通過交通に加え、通勤や物流などの利用交通が混在し、交通が集中する地域であり、一般国道112号を含む幹線道路では、特に朝夕の渋滞が慢性化し、近年の大雨や大雪など悪天候の条件が加わることで渋滞が深刻化するなど、幹線道路としての機能低下により、地域の経済活動や救急医療搬送、交通事故の多発など日常生活に支障をきたしております。よって、<u>山形南道路は、安全で円滑な交通環境の確保に向けて必要不可欠な道路であります。</u></p>

道 整 第 81 号
令和5年11月 9日

国土交通省東北整備局長
山 本 巧 様

山形市長 佐藤 孝弘
(公印省略)

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について（回答）

令和5年11月8日付け国東整道一計第12号で照会がありました、一般国道112号山形南道路における対応方針（原案）について同意します。

一般国道112号は、山形市を起点に酒田市に至る路線で、山形県の村山地方と庄内地方を結ぶ大動脈であり、物流や救急医療搬送など沿線自治体の連携を支えるとともに、観光や産業等による地域振興を促進するうえでも重要な幹線道路です。また、緊急時には東北中央自動車道や山形自動車道を補完する役割も担っており、国土強靱化に資するダブルネットワークの機能強化の面からも、一般国道112号の整備は極めて重要と考えております。

しかし、当該地域は通過交通に加え、通勤や物流などの利用交通が混在し、交通が集中する地域であり、一般国道112号を含む幹線道路では、特に朝夕の渋滞が慢性化し、近年の大雨や大雪など悪天候の条件が加わることで渋滞が深刻化するなど、幹線道路としての機能低下により、地域の経済活動や救急医療搬送、交通事故の多発など日常生活に支障をきたしております。よって、山形南道路は、安全で円滑な交通環境の確保に向けて必要不可欠な道路であります。

山形市としては、用地交渉や農道補償などにおける地元及び関係機関との協議や、道路起点となる蔵王産業団地内の立地企業等への説明会開催に向けた調整など、事業推進に全面協力して参りたいと考えております。

つきましては、山形南道路の一日も早い事業化に向けて調査を促進されますよう特段のご配慮をお願いいたします。

5. 対応方針(案)のまとめ

5-1. 対応方針(案)

1. 道路整備の必要性

【理由】

政策目標を実現できる道路整備を検討

【政策目標】

- 必要な交通容量の確保
- 安全な交通環境の確保
- 円滑な物流ルートの確保
- 安定した救急搬送ルートの確保



【地域の意見聴取結果】

対象範囲の課題	○道路利用者の意見から、「渋滞」「交通事故」「医療」「物流」などの課題を整理。
道路整備の必要性	○地域住民や事業者など、回答いただいた道路利用者の多くが、道路整備の必要性を感じている。
ルート検討において重視すべき事項	○地域が感じているルート検討において重視すべき項目は「必要な交通容量が確保され、安全な交通環境や安定した救急搬送ルート、物流ルートが確保されること」が多い。
自治体の意見	○山形県・山形市から、案に同意すると共に、早期事業化を要望する意見を頂いた。

2. 対応方針 (案)

◆計画及びルート帯案

地域の課題を解決するための政策目標に寄与し、対応策として最も優れている【B案】バイパス案（別線整備案）とする。

【理由】

- 地域の課題を解決するための政策目標（「必要な交通容量の確保」、「安全な交通環境の確保」、「円滑な物流ルートの確保」、「安定した救急搬送ルートの確保」）を達成。
- 地域の意見聴取結果で得られた多くの地域のニーズに応えられる。
- 影響する家屋・事業所数が少なく、現道交通への影響や経済性の面でも優れている。

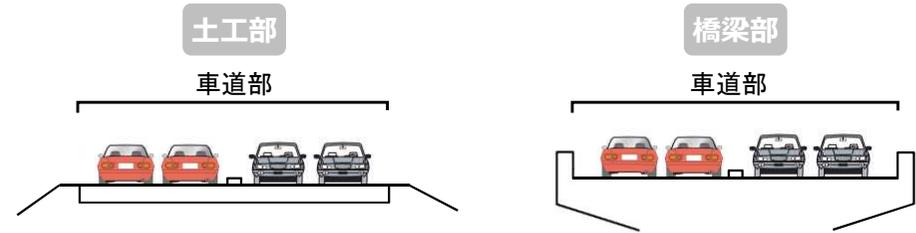
5-1. 対応方針(案)まとめ

◆ 課題箇所をバイパスすることで交通転換を図り、課題解消を図る。

■ 整備概要

延長	約9km	設計速度	V=80km/h
構造	土工、橋梁等		
コスト	約620～720億円		

■ 代表断面図(イメージ)



■ ポイント

- バイパス整備により交通容量の拡大を図る
- 現道交通がバイパスに転換することで、現道交通の円滑化を図る
- 盛土構造とすることにより、沿道出入りの影響を抑制し、バイパス交通の円滑化を図る
- 大部分をバイパス整備とすることにより通過交通と発着交通を分散し、利用交通の分担を図る
- 道路規格に応じた必要幅員を設定し、通常期・冬期を問わず円滑な救急搬送ルート、物流ルートを確認する
- 一部現道活用とすることにより、施設・文化財等への影響を極力回避

【B案】バイパス案(別線整備案)

